専門委員会
平成２７年度 課題研究報告

学生の自己成長感を保障する保育実習指導のあり方Ⅱ
ーヒアリング調査からの検討ー

発表者　吾田　富士子（藤女子大学）

浦田　雅夫　（京都造形芸術大学）

仙石　美千代（名古屋文化学園保育専門学校）

岡本　依子　（立正大学）

委員長　脇　　信明　（長崎大学）

はじめに　研究の課題と背景

研究の視点　①自ら成長する保育者　　②実習指導の単位化と実際の指導

H26

質問紙調査

1　実際の保育実習と保育実習指導の現状

2　学生の自己成長感をどうとらえているか

調査対象：保育士養成校489校の実習担当教員・非担当教員

(全511校のうち完成年度を迎えていない22校を除く)

H27

ヒアリング調査

学生の自己成長を保障する実習指導の実践方法

連続性や発展性をふまえた実習指導のあり方

調査対象：H26調査でヒアリング調査に協力する旨記載のあった

78校のうちの9校の回答者

本日の報告

はじめに	脇　信明
第1章　実習の連続性と　保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの配置	吾田富士子
第2章　ヒアリング調査の概要	浦田　雅夫
第3章　ヒアリング調査結果	
第4章　ヒアリング調査からみえてきた実習指導の特徴	仙石美千代
	岡本　依子
第5章　新たなる実習指導への視座	脇　信明
おわりに	

機器操作　　勝浦　美和

（四国大学短期大学部）

第1章

実習の連続性と保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの配置

第1章　実習の連続性と保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの配置

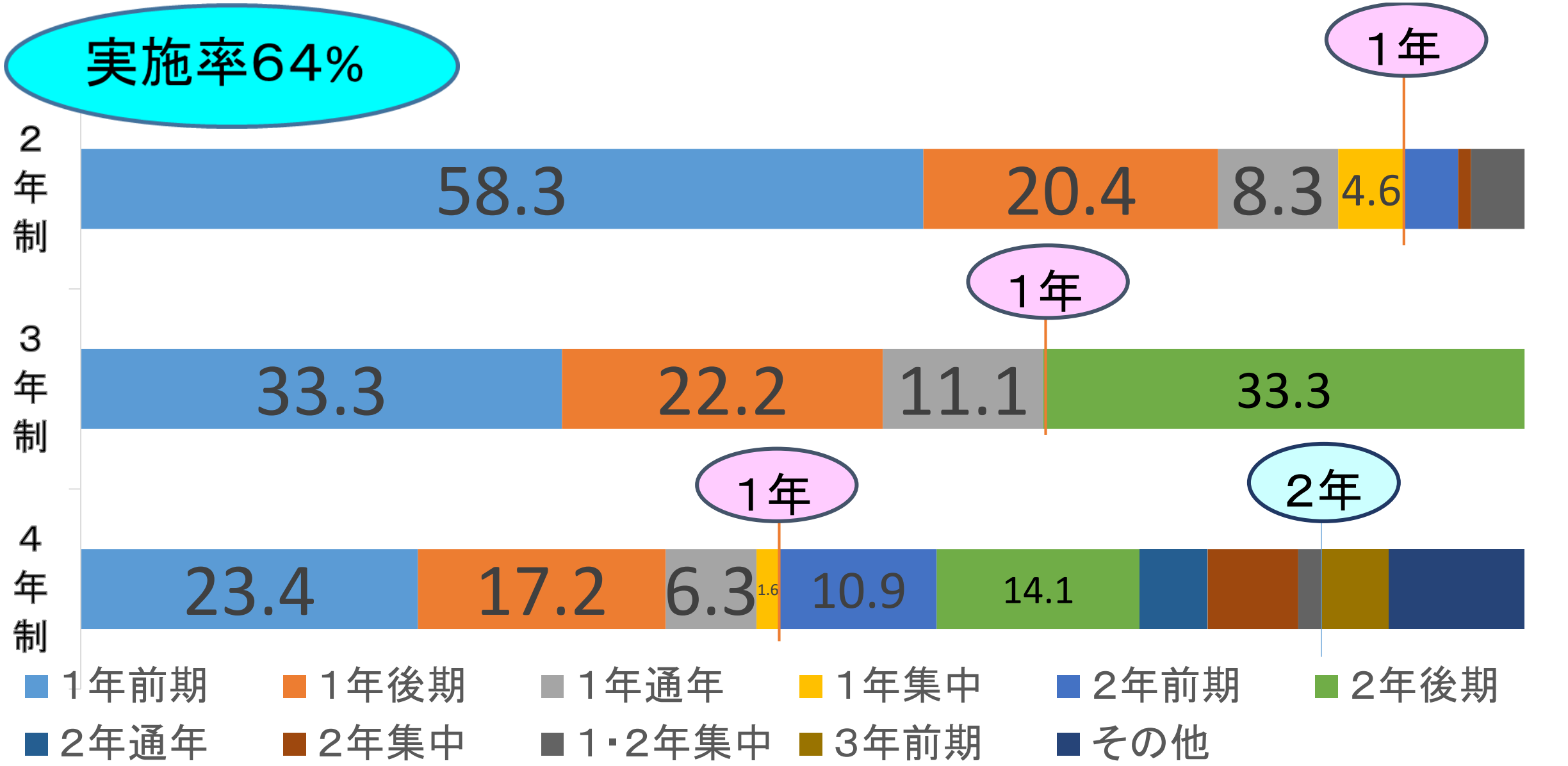
質問紙調査の未分析項目の整理

カリキュラム上の
実際の配置

第1節

実習に先立つ体験的実習

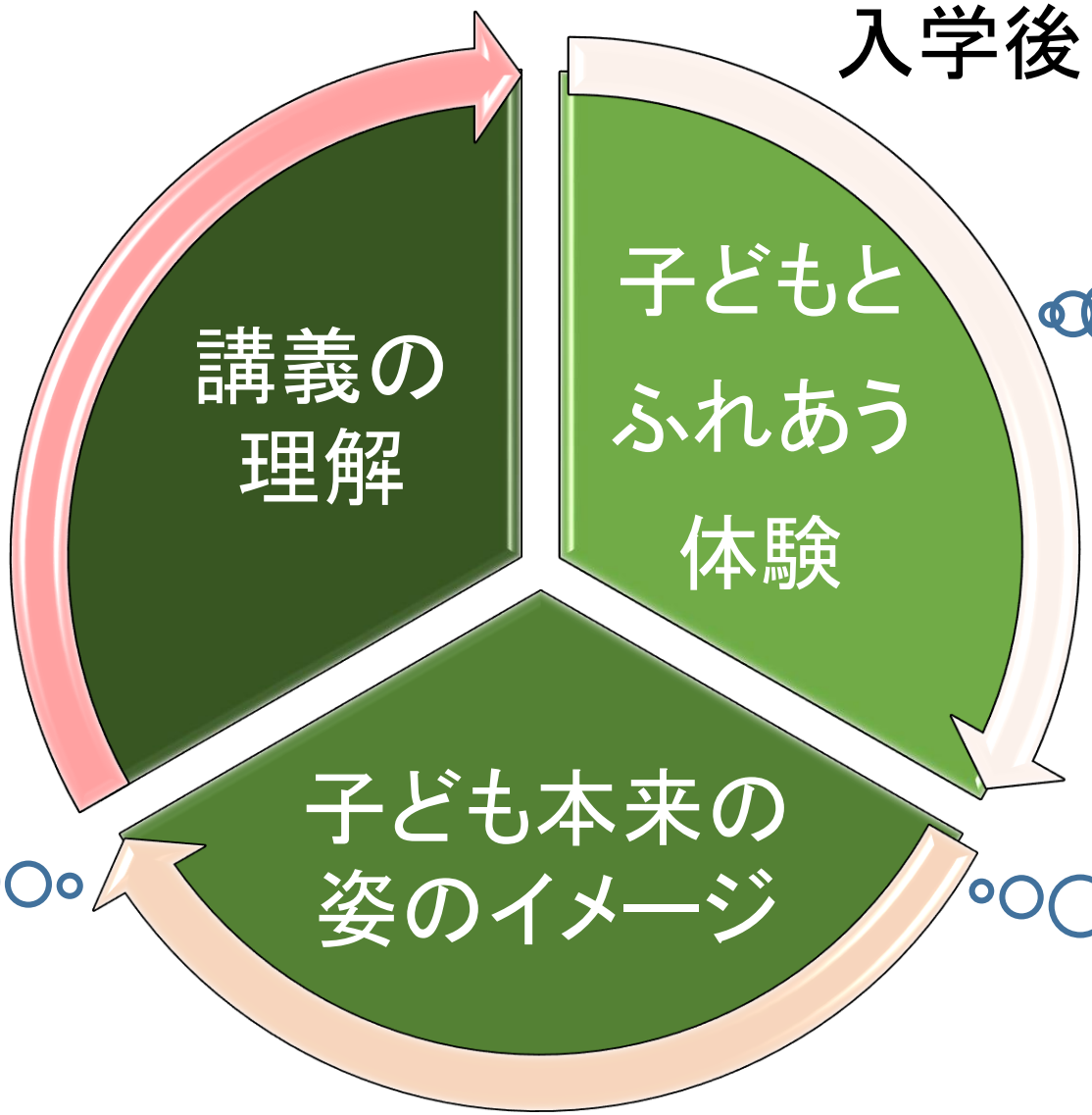
第1章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習



第1章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

学習意欲の喚起

入学後　早い段階

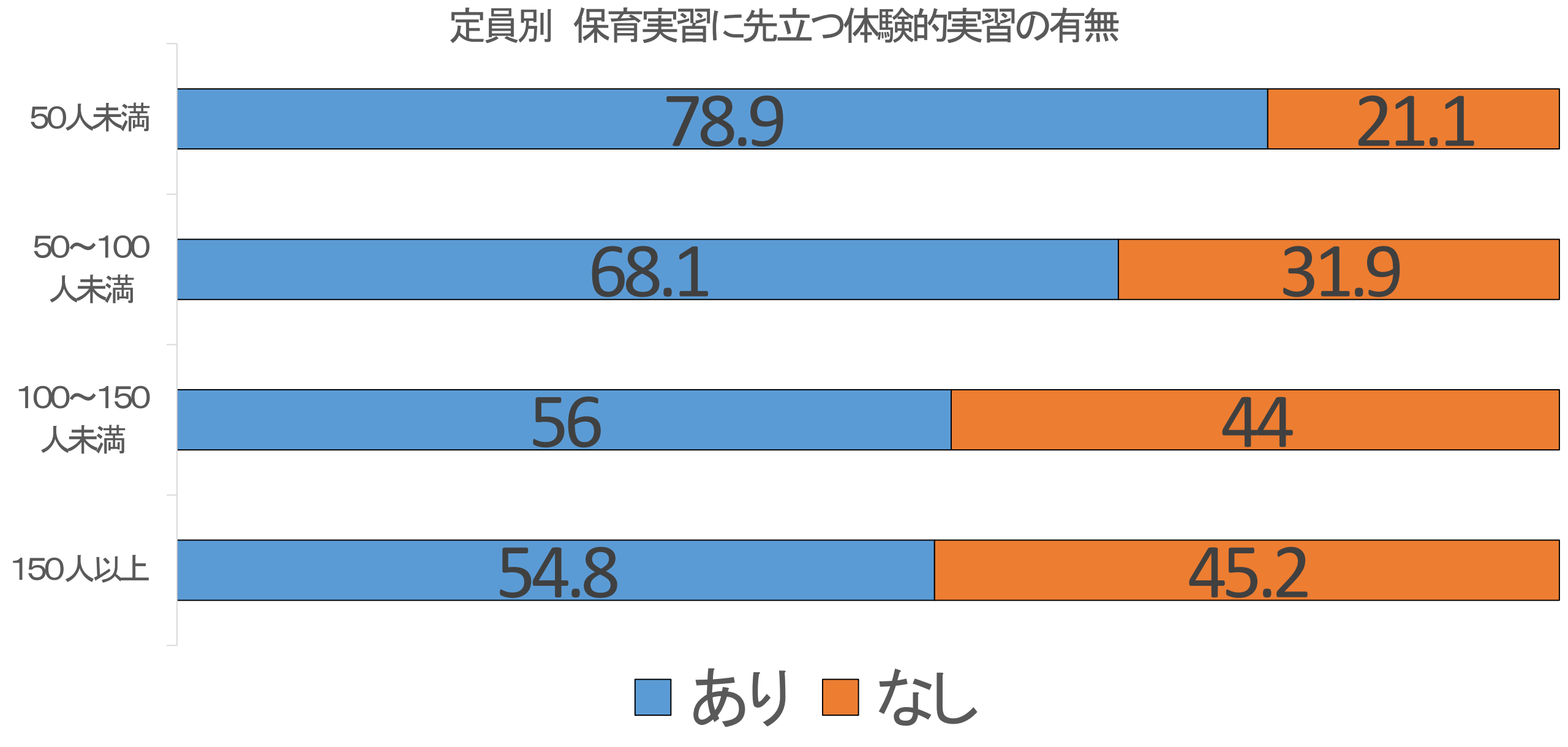


子どもの魅力

かかわりの難しさ

保育士の仕事

第1章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習



第1章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

科目名

87.4%

見学　観察

参加

38.6%

ボランティア

サービスラーニング

カリキュラム上の位置づけ

必修科目

ゼミナール

ボランティア

46.9%

出前保育

地域貢献

内容

見学　観察　体験

提出物

グループ

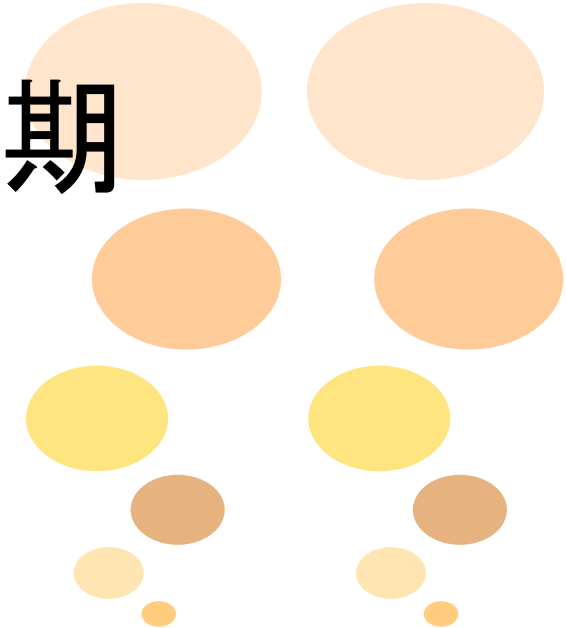
クラス

全員

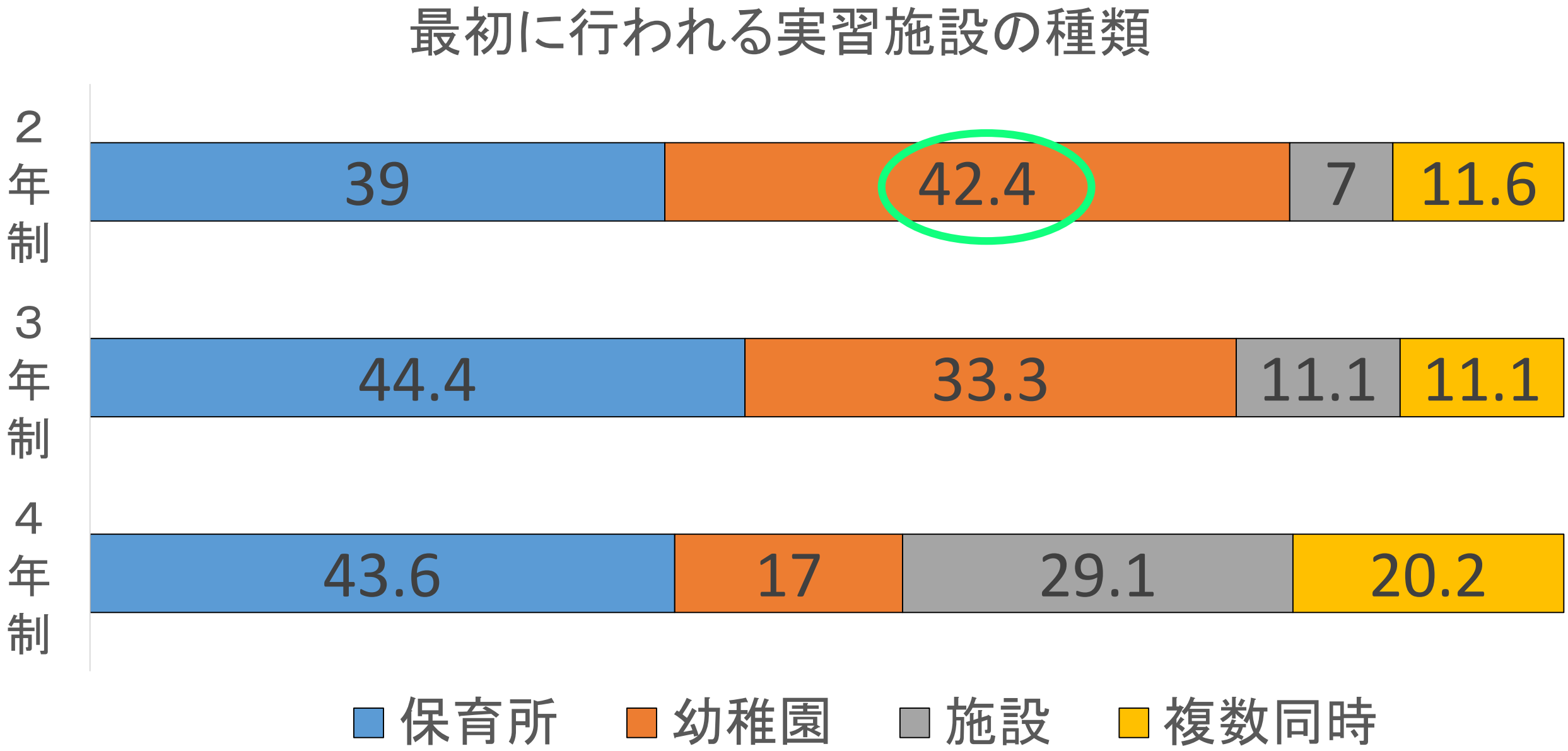
49.0%

第２節

実習および実習指導の時期



第1章　第2節　実習と実習指導の時期



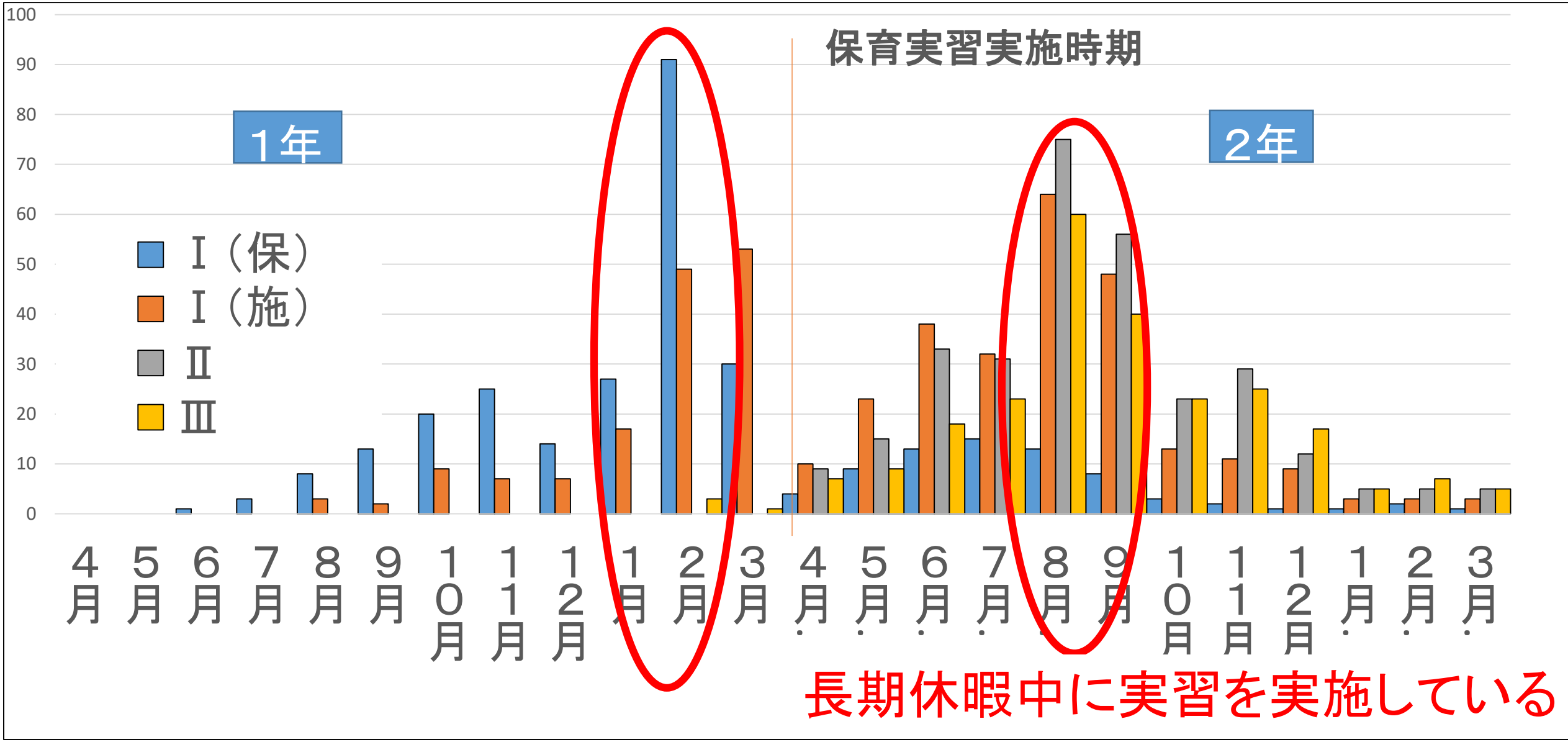
第１章　第2節　実習と実習指導の時期

最初の実習

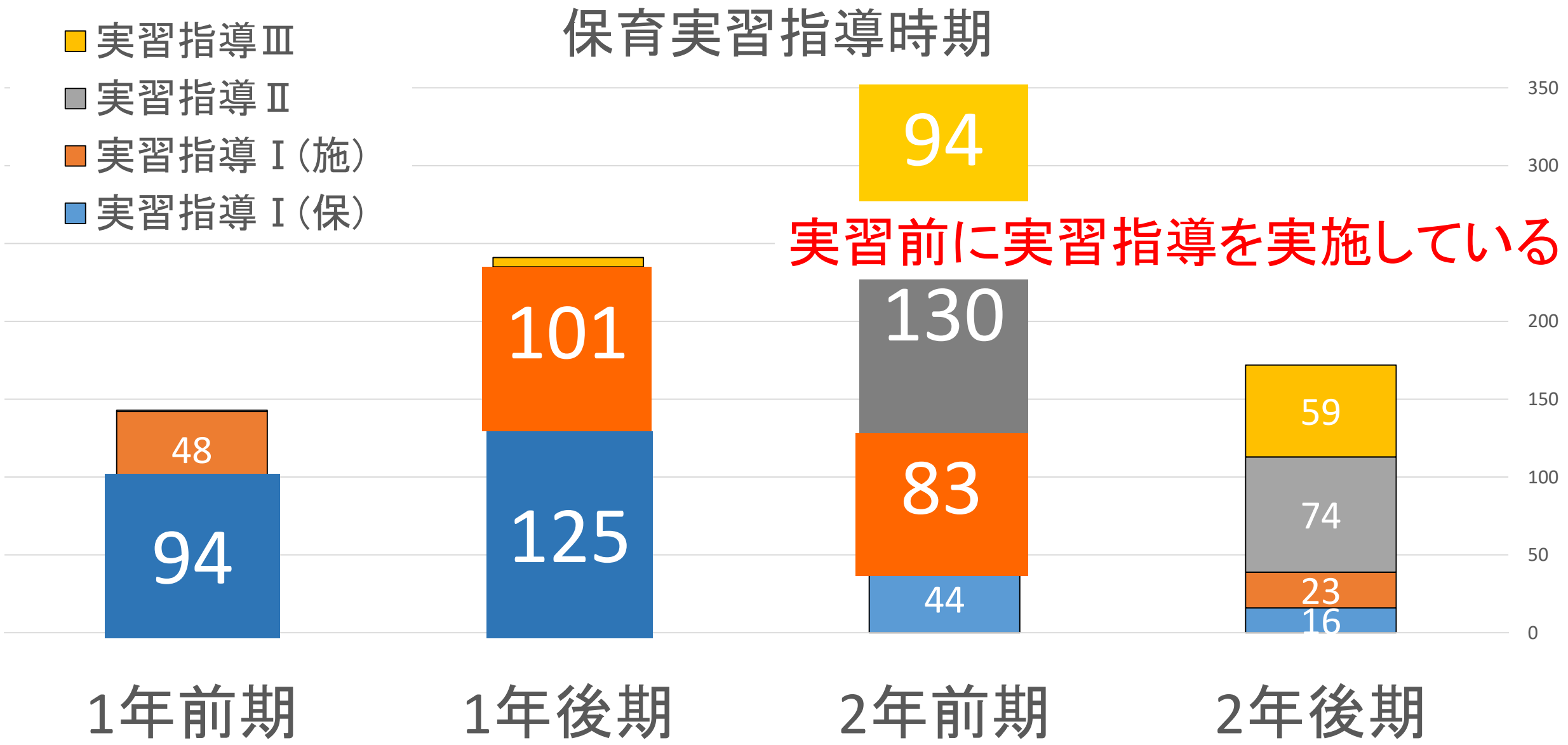
２年制養成校：幼稚園４割←６１．６％２回に分けて実施

例）１年次１１月に５日
　　２年次６月に３週間

第1章　第2節　実習と実習指導の時期　2年制養成校



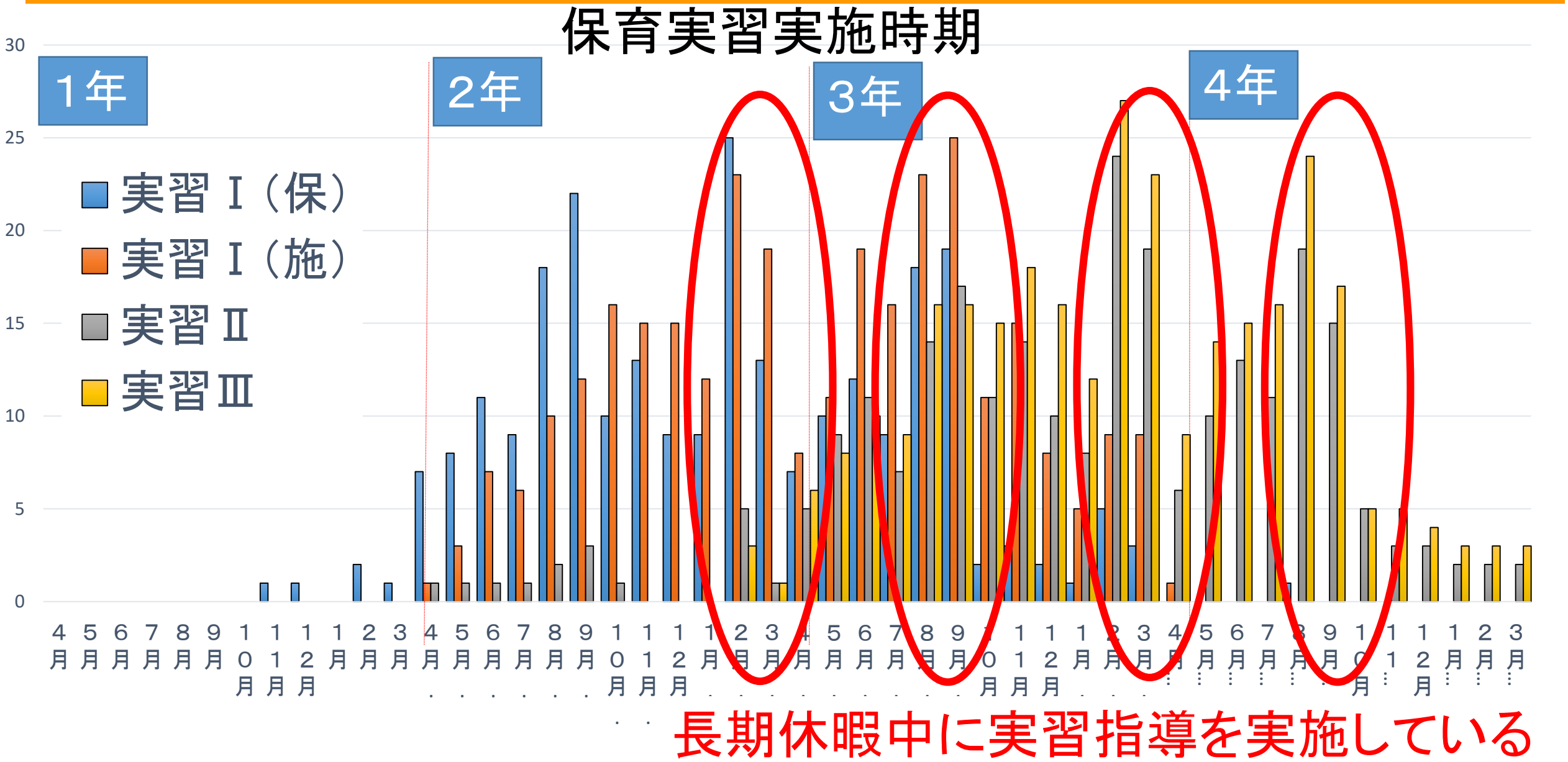
第1章　第2節　実習と実習指導の時期　2年制養成校



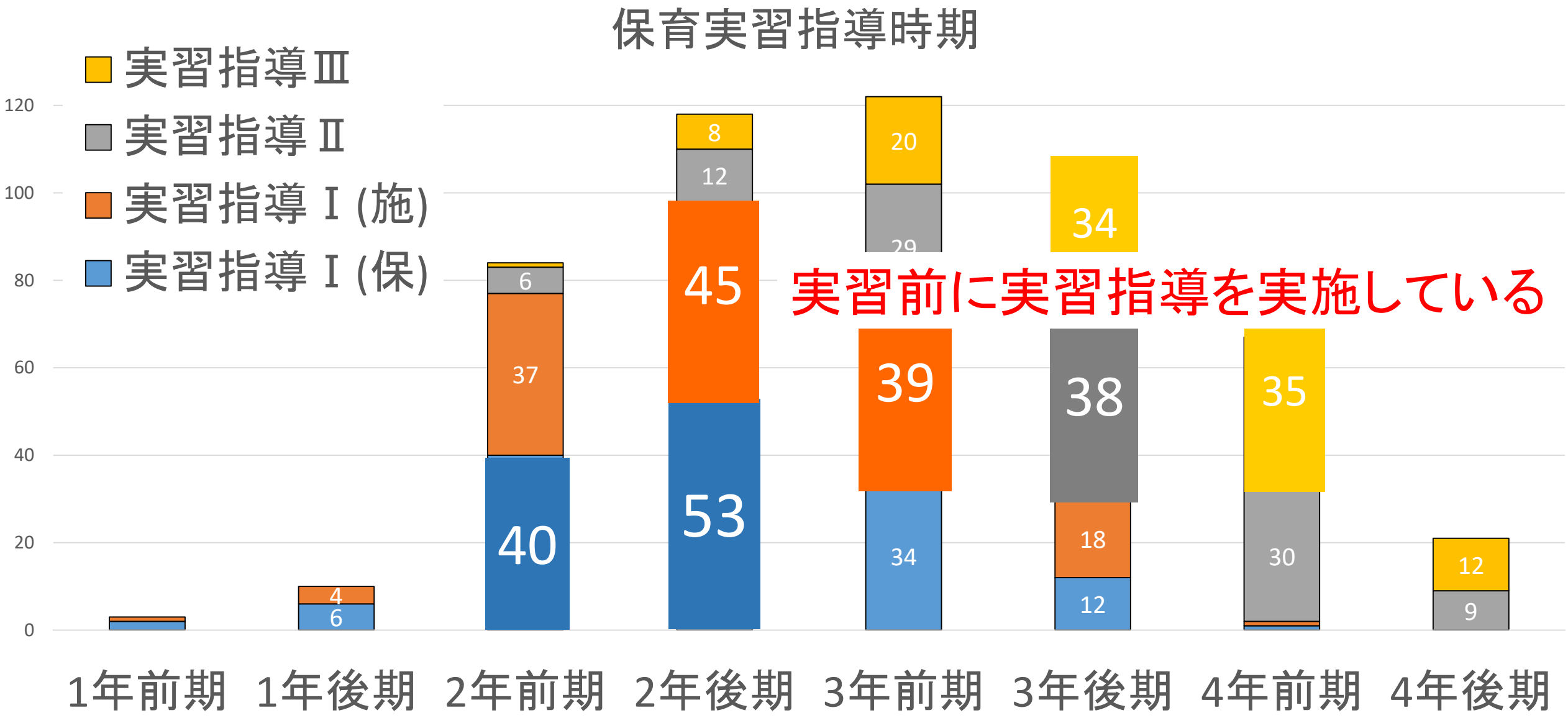
第1章　第2節　実習と実習指導の時期　2年制養成校（%）

事後指導の実施方法	実習指導Ⅰ（保）	実習指導Ⅰ（施）	実習指導Ⅱ	実習指導Ⅲ
保育実習指導Ⅰの授業内で行う	31.7	31.3		
保育実習指導Ⅱで行う	23.4		47.1	
保育実習指導Ⅲで行う		12.3		44.8
実習後に開講する別の授業で行う	6.5	9.5	10	7.2
授業外のコマを使って全員で行う	12.9	17.3	15.4	12.2
授業外の時間にグループまたは個別指導を行う	19.4	22.2	22.4	20.4
授業は行わずレポート課題の提出によって指導する	1.2	1.4	0	0.6
その他	4.9	5.6	4.6	5
特に行っていない	0	0.4	0.4	9.9
計	100	100	100	100

第１章　第２節　実習と実習指導の時期　４年制養成校



第1章　第2節　実習と実習指導の時期　4年制養成校



第1章　第2節　実習と実習指導の時期　4年制養成校（%）

事後指導の実施方法	実習指導Ⅰ（保）	実習指導Ⅰ（施）	実習指導Ⅱ	実習指導Ⅲ
保育実習指導Ⅰの授業内で行う	35.9	40.8		
保育実習指導Ⅱで行う	19.3		39.1	
保育実習指導Ⅲで行う		14		38.7
実習後に開講する別の授業で行う	1.7	3.8	4	3.2
授業外のコマを使って全員で行う	12.2	8.3	17.2	15.3
授業外の時間にグループまたは個別指導を行う	23.2	21.7	29.1	29
授業は行わずレポート課題の提出によって指導する	2.8	4.5	6	7.3
その他	5	70	4.6	6.5
特に行っていない	0	0	0	0
計	100	100	100	124

第1章　第2節　実習と実習指導の時期

実習指導の開講期

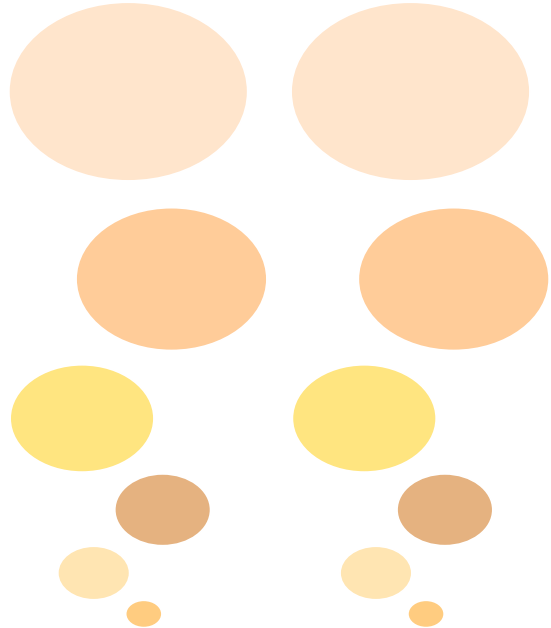
	通年または前・後期	学年を超えて
保育実習指導Ⅰ（保）	29.7%	14.1%
保育実習指導Ⅰ（施）	25.4%	13.8%
保育実習指導Ⅱ	21.9%	3.2%
保育実習指導Ⅲ	15.9%	1.4%

カリキュラム上の課題

実習は上位学年
実習指導内での事後指導

第3節

実習教育の変化と課題



第1章　第3節　実習教育の変化と課題

前回調査との比較

	会員校	大　学	短期大学	専修学校他
H14	306	44	199	50
☟				
H27	518	210	217	91

事前指導重視　☞　自らの課題を認識

成長を実感しながら主体的に学ぶ

第1章　第3節　実習教育の変化と課題

養成校の独自性と実習の連続性・階層性

実習に先立つ体験的実習　→　多様性

各養成校のおかれている異なる状況　→　独自な教育

保育実習指導　→　大きな違いは見られない

ミニマムスタンダードに示された実習教育の標準化

・実習生としての自己課題の明確化

・学生の主体的な学び　→　自らの進路選択　→　卒業後の成長

・継続性と段階性が意識される「らせん状学習モデル」

第2章

ヒアリング調査の概要

第2章　第1節　調査の目的

保育実習ならびに保育実習指導と学生の成長との関連について、養成校教員がどのようにとらえているのかを明らかにすること

第2章　第1節　調査の目的

時間経過に伴う変化をとらえる研究方法として

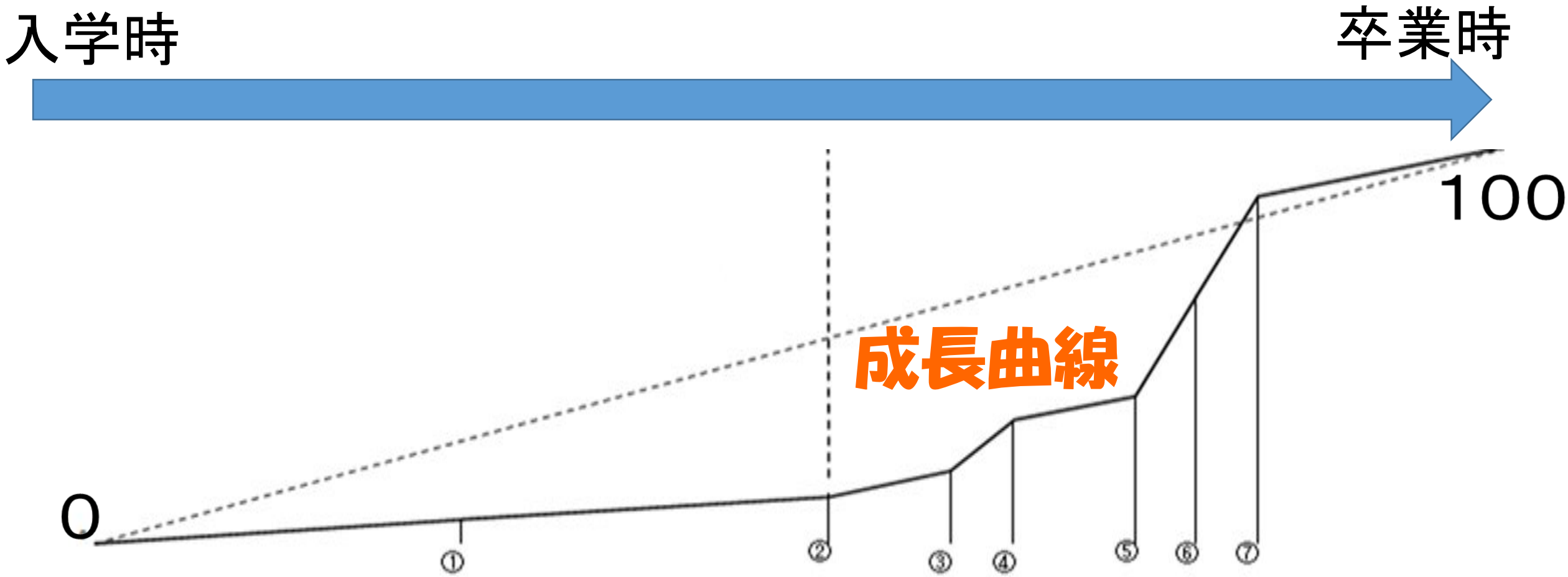
○ライフライン法

時間経過に伴う個人の主観的な心情の変化をプラスとマイナスで表すものであり（香曽我部，2012）調査対象者本人が作成するものとされている。

○複線経路・等至性アプローチ（TEM）

原則として個人の経験した経路を扱う研究方法

第2章　第1節　調査の目的



第2章　第2節　1.調査対象

①平成26年度専門委員会課題研究におけるアンケート調査回答者のうち、ヒアリング調査に関する協力の申し出のあった養成校

②回答者が、現任校に2年以上在籍しており、保育実習指導を担当している

③ブロック毎に独自性の高い保育実習指導を行っている養成校

第2章　第2節　1.調査対象

④養成期間、学生定員、学校種別について
（短大、4年制大学、専門学校）の多様性の確保

⑤「保育実習Ⅲ」を実施している養成校を含むよう調整

第2章　第2節　1.調査対象（ヒアリング対象校）

対象校	学校種	修業年限	学生定員	養成校総勤務年数 （現任校勤務年数）	保育士養成課程での 実習指導経験総年数
A校	専門学校	2年制	50名	4年 （4年）	4年
B校	短期大学	2年制	50名	9年 （4年）	7年
C校	短期大学	2年制	80名	20年 （8年）	14年
D校	短期大学	2年制	100名	18年 （18）	18年

第2章　第2節　1.調査対象（ヒアリング対象校）

対象校	学校種	修業年限	学生定員	養成校総勤務年数 （現任校勤務年数）	保育士養成課程での 実習指導経験総年数
E校	短期大学	2年制	100名	9年 （9年）	9年
F校	短期大学	2年制	200名	7年 （7年）	7年
G校	大学	4年制	50名	13年 （13年）	13年
H校	大学	4年制	100名/80名 （2学科で養成）	11年 （11年）	11年
I校	大学	4年制	110名	16年 （9年）	16年

第2章　第2節　2.調査内容（ヒアリング調査項目）

① アンケート調査の回答内容の確認

② 在学期間における保育実習ならびに保育実習指導に対する学生の変化

③ 学生の変化と実習指導との関連

④ 学生の自己成長を支えるための事前指導・事後指導の工夫

⑤ 自己成長を支えるための実習間の連続性や発展性の意識

第2章　第2節　2.調査内容（ヒアリング調査項目）

⑥　実習指導全般について，非担当教員との連携や協力

⑦　保育士養成課程のカリキュラム改定以降の実習指導の変化について

⑧　学生の成長を感じられないとき

⑨　その他

第2章　第2節　3.調査方法と倫理的配慮

（1）調査方法

ヒアリング対象者の勤務先に専門委員が2人1組で訪問し、半構造化インタビューを実施。
（調査実施期間は2015年10月～12月）

（2）倫理的配慮

全国保育士養成協議会研究倫理委員会の承認済。

第2章　第3節　分析方法

①ヒアリングデータの逐語録化

②ケースレポートの作成

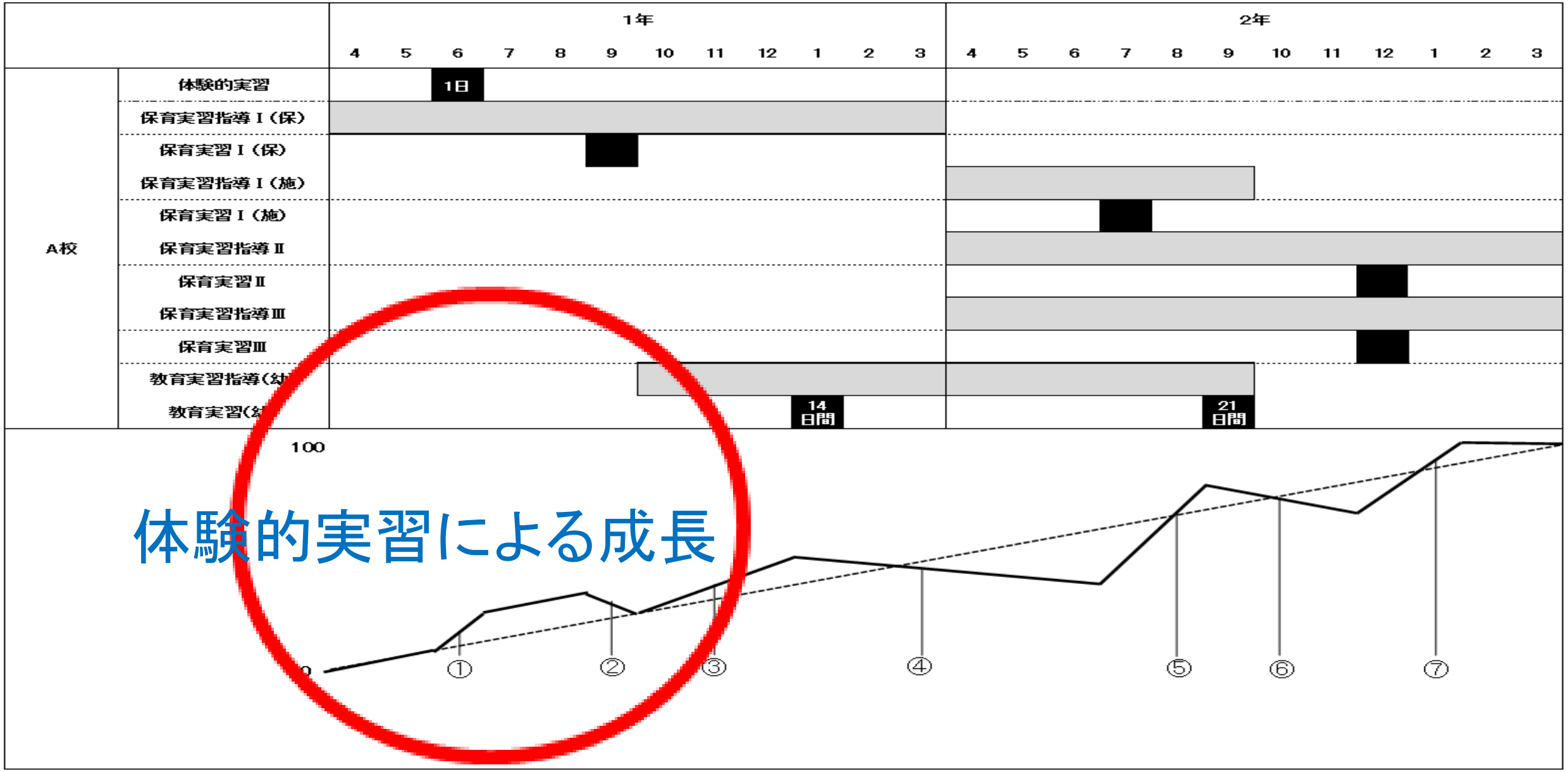
③成長ポイントの抽出と分析

④保育実習にかかわる実習指導実践の分類

第３章

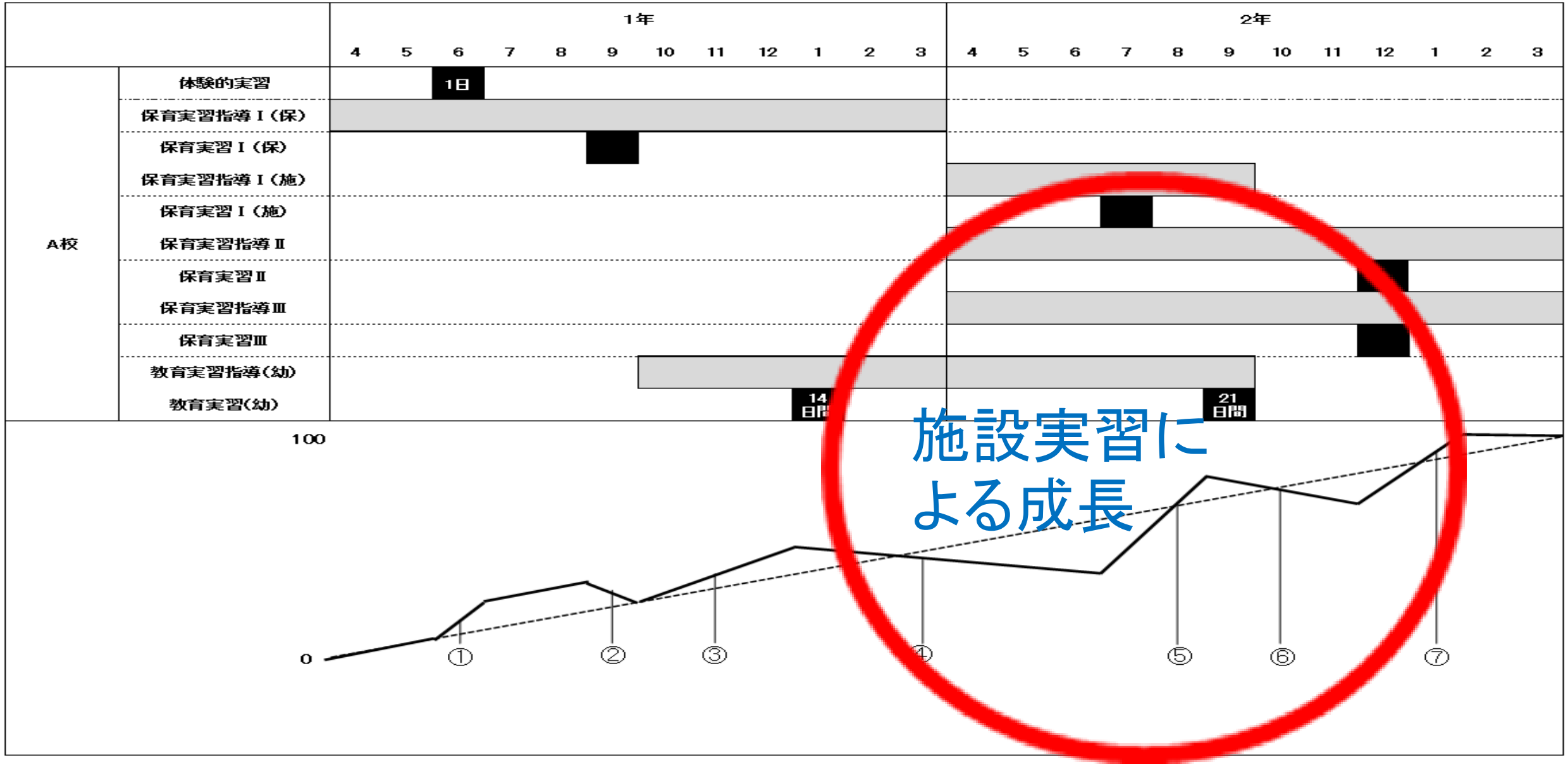
ヒアリング調査結果

第3章　第2節　A校（2年制専門学校）

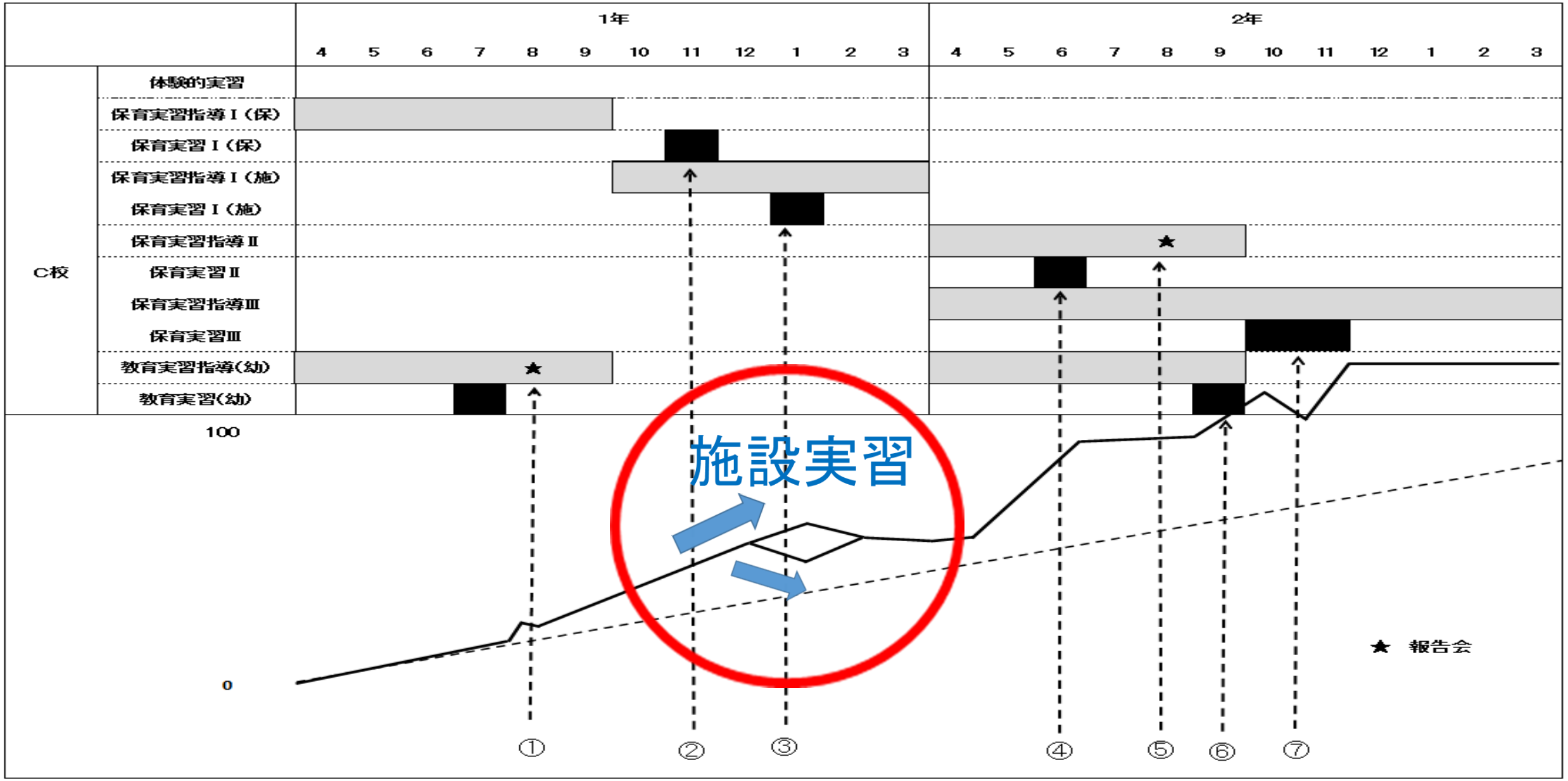


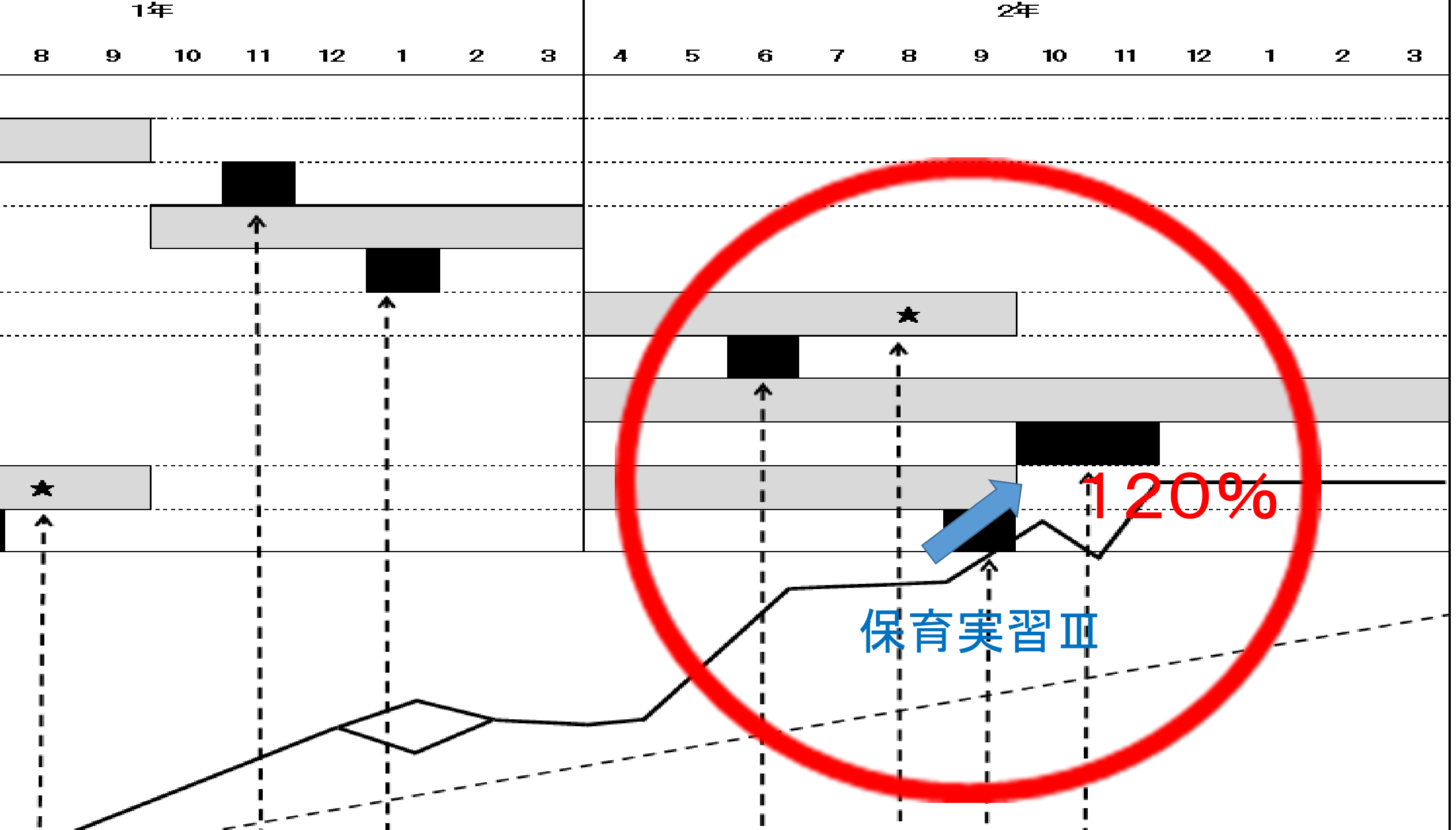
体験的実習による成長

第3章　第2節　A校（2年制専門学校）

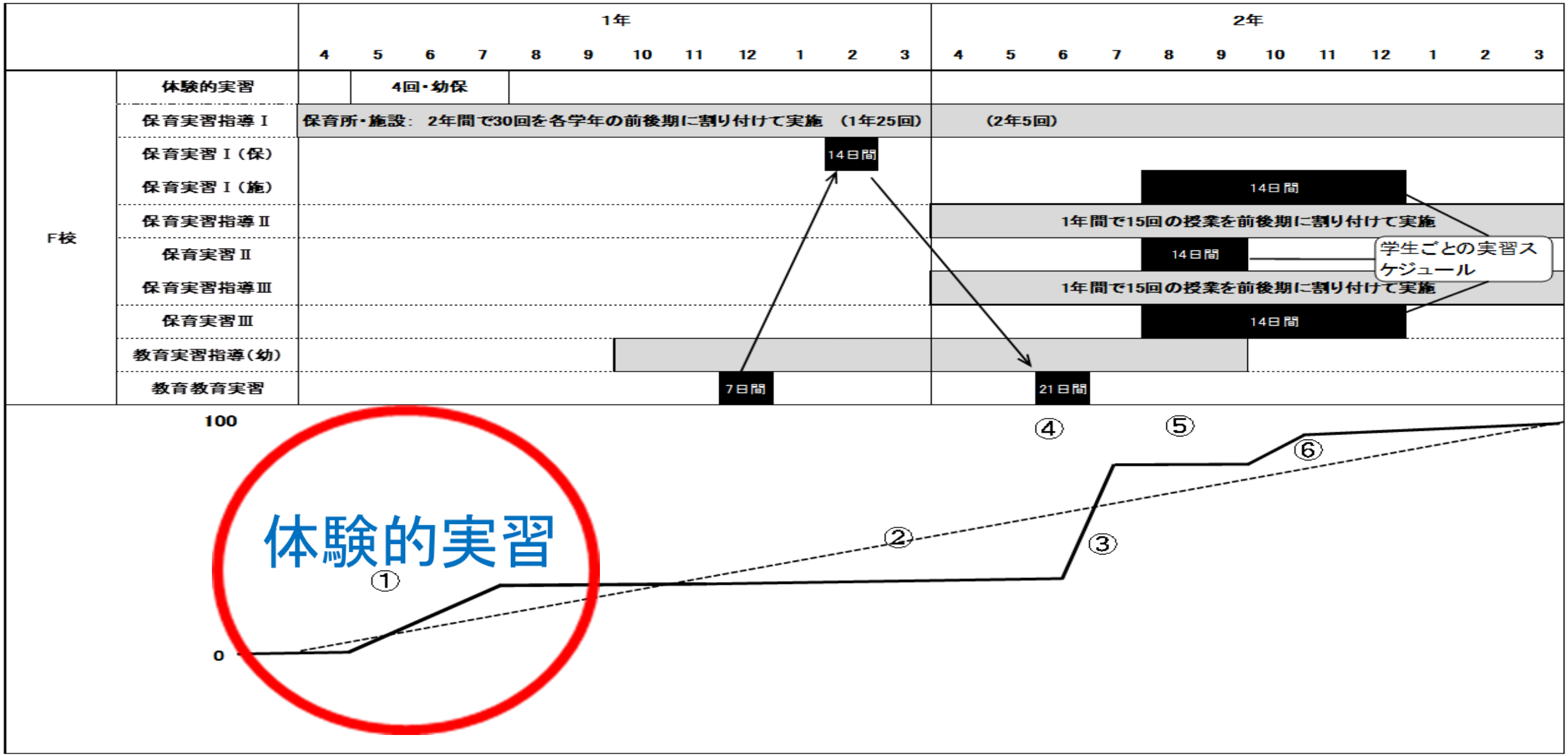


第3章　第4節　C校（2年制短大）

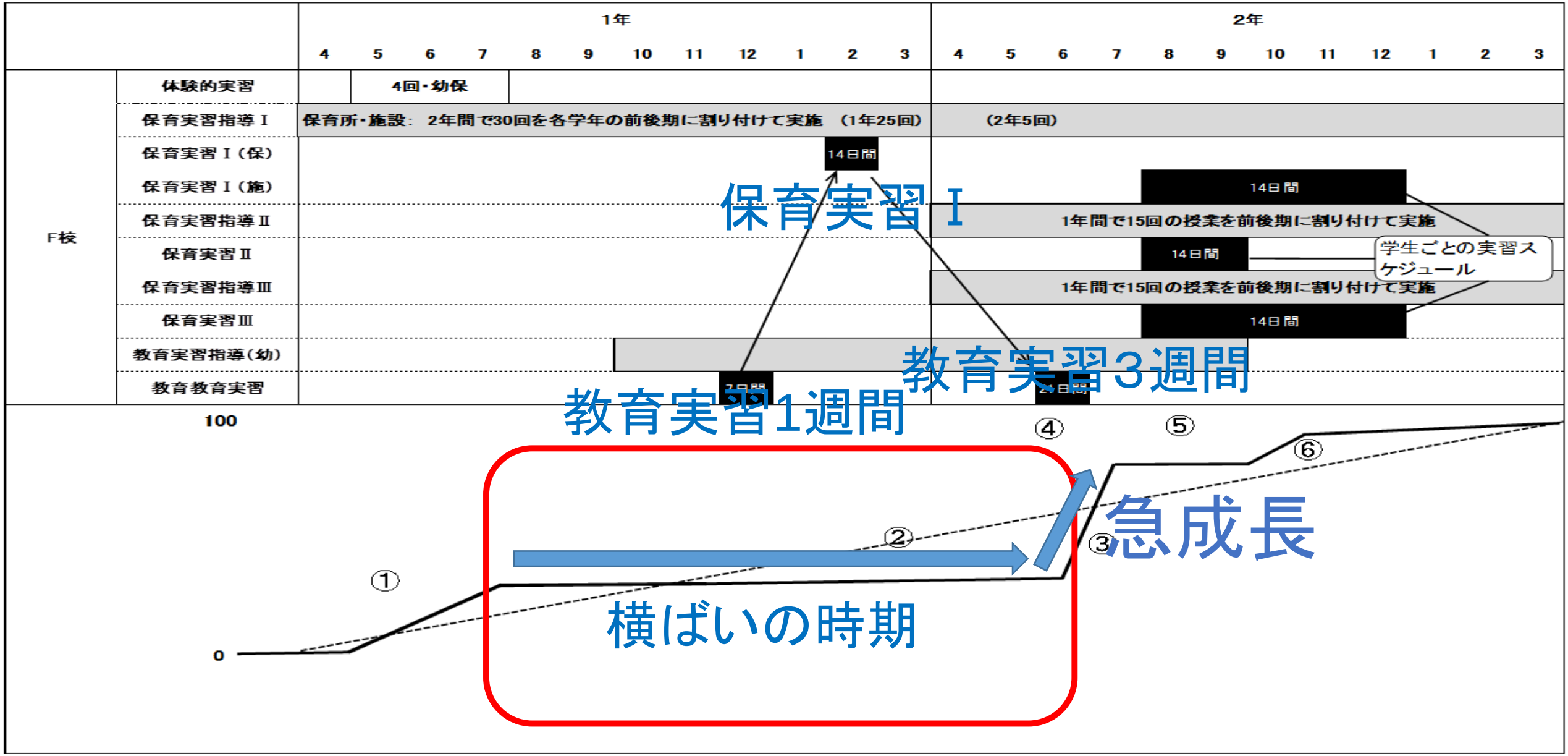



1年
2年
8
9
10
11
12
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
1
2
3
120%
保育実習Ⅲ

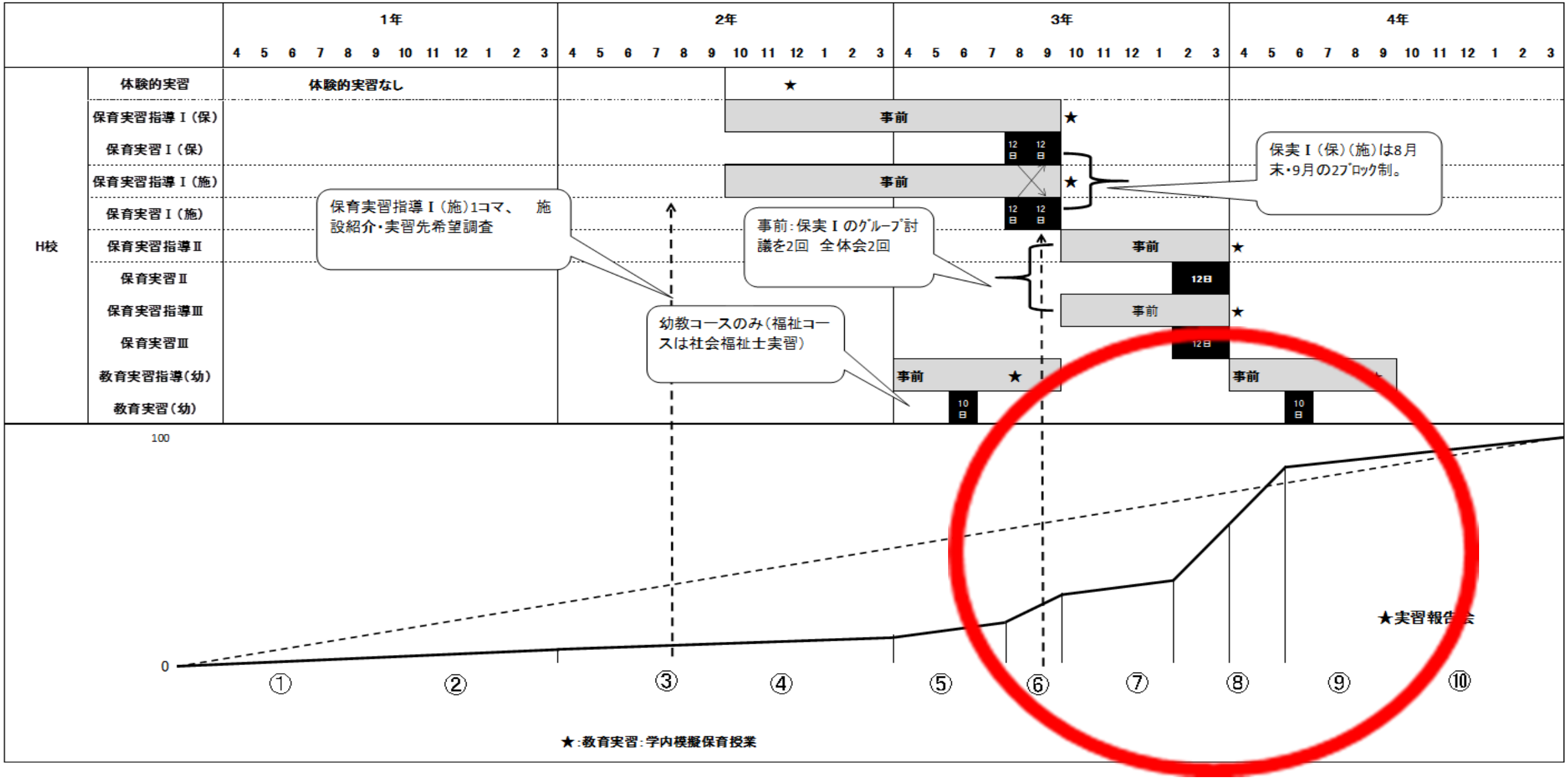
第3章　第7節　F校（2年制短大）



第3章　第7節　F校（2年制短大）



第3章　第9節　H校（4年制大学）



第４章

ヒアリング調査からみえてきた実習指導の特徴

第1節

保育実習に先立つ体験的実習

第4章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

E校（2年制短期大学）

保育実習に先立つ体験的実習

1年次前期　基礎ゼミナールの授業内で実施

隣接の幼稚園、近隣の保育園と児童館で

90分または180分行う

保育現場のイメージをもたせるため

第4章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

G校（4年制大学）

保育実習に先立つ体験的実習

1年次9月　　大学附属幼稚園

2年次後期　　保育園、施設（障がい児通園施設）

それぞれ半日程度実施

子どもたちとかかわることで保育に対する具体的なイメージをもたせるため

第4章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

B校（2年制短期大学）

保育実習に先立つ体験的実習

1年次6～7月　基礎演習の授業内で実施

近隣の保育園　90分の観察参加実習

1年次5～7月

学内にある子育て支援広場　1日観察参加実習

→グループで実施（エピソード記録・カンファレンス）

保育に対する偏ったイメージを多様化させるため

第４章　第１節　保育実習に先立つ体験的実習

D校（２年制短期大学）

保育実習に先立つ体験的実習

１年次７月　保育園　観察参加実習

１年次８月　施設　　観察参加実習

それぞれ１日実施

子どもや利用者にかかわる体験をもたせるため

※全教員が保育園と施設で観察参加実習を実施

第4章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

C校（2年制短期大学）

保育実習に先立つ体験的実習　の位置づけではない

保育観察　を実施　（記録に重点を置く）

1年次前期　ゼミナールの授業内

近隣の保育園で90分間を2週に渡り実施

記録を取り、次の実習に役立たせるため

→ 保育実習に先立つ体験的実習　ととらえられる

第4章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

H校（4年制大学）

保育実習に先立つ体験的実習 をあえて設けていない

学生のコース選択の多様性を保障するため

入学から1年間かけて進路を考え2年次からコースを選択

→ 調査の次の年から2年次前期に

附属幼稚園で観察実習 を実施予定

第4章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

保育実習に先立つ体験的実習　の成果

子ども
（乳児・障がい児）

利用者

低年次
の学生

偏見・恐怖
不安解消

イメージできる
気づく

保育への関心
意欲向上

第4章　第1節　保育実習に先立つ体験的実習

保育実習に先立つ体験的実習　の課題

受け入れ先
確保が困難

受け入れ人数の制限

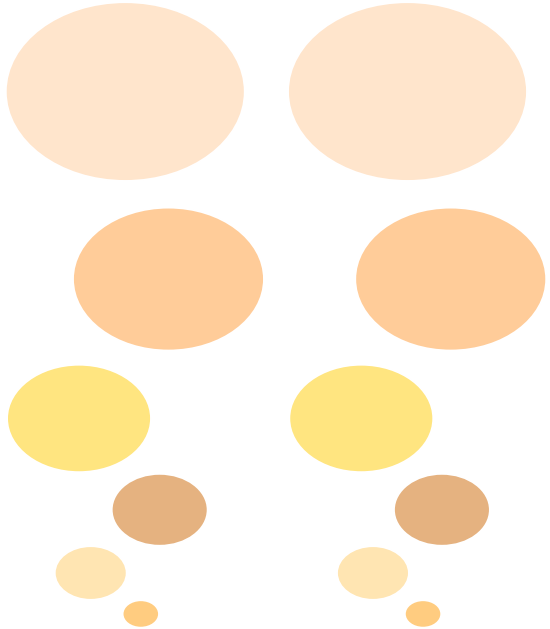
保育園は○○
施設は△△

1つの園、1人の保育者
でイメージを固定しがち

保育の多様性を伝える

第3節

実習事前指導



第4章　第3節　実習事前指導

対象校の実習事前指導の内容

身なり･礼儀など

服装･挨拶などの指導
禁止事項の確認

個別指導によるもの

記録に対するコメント記載
面談･欠席者への補講

教員からの教材等提供によるもの

DVD教材でのエピソード記録の実践
具体的な事例検討

上級生からの情報提供･情報交換

報告会で実習体験を聞き質疑応答
上級生のポスター発表に参加

保育実習に先立つ体験的実習

保育観察･記録作成

第4章　第3節　実習事前指導

対象校の実習事前指導の内容　　教員の個別指導

記録に対するコメント記載

毎時間の記録作成に教員がコメントを記載する

個人面談

F校　実習要件を満たない学生に実施

H校　事前訪問報告書を元に目標と課題について話す

欠席者への補講

H校　実習指導の授業は欠席不可
授業外に補講を実施

○ 実習に対する意識向上
△ 教員の負担が大きい

第4章　第3節　実習事前指導

対象校の実習事前指導の内容　　教員からの教材等提供によるもの

事例検討

D校　可能な限り事例を扱い
　　具体例を出して検討する

経験知に準ずるものが得られる

エピソード記録

E校　DVD教材や前の実習の内容で
G校　エピソード記録を記述

レポート

I校　保育者研修のDVDを視聴しレポートを記載

みる力・
書く力が育つ

第4章　第3節　実習事前指導

対象校の実習事前指導の内容　上級生からの情報提供・情報交換

報告会

上級生の実習体験を聞く
その後、質疑応答

ポスターセッション（低年次学生＋高校生）

B校　上級生がOpen Space Technology
で実習体験を議論し、まとめた
ポスター発表に参加し、セッションする

先輩ゼミ

G校　グループの上級生から
実習日誌を元に説明を受ける

実習に対するイメージがつく
教員よりも身近で相談しやすい

第4章　第3節　実習事前指導

実習事前指導 の成果

教員

個別指導
全体指導

上級生

実習事前の学生

身近で相談しやすい

みる力・書く力がつく

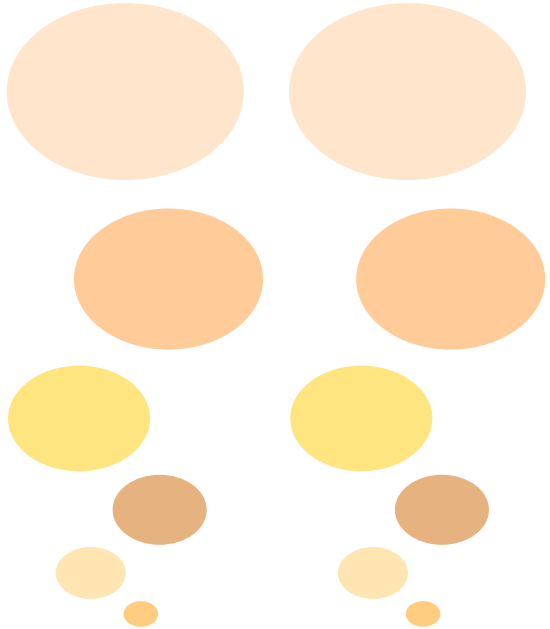
不安解消

実習に対する具体的なイメージがつく

保育への関心
意欲向上

第4節

実習事後指導



第4章　第4節　実習事後指導

対象校の実習事後指導の内容

実習報告会

口頭発表形式
プレゼンテーション形式
ポスター発表形式

実習報告書

実習報告書・振り返りレポート
保育実習総括としての報告レポート

エピソード記録

エピソード記録・場面記録
事例検討

実習評価票の活用

開示し、課題を見つける
開示し、自己評価と比較

第4章　第4節　実習事後指導

対象校の実習事後指導の内容

口頭発表形式　A･B･E･F･G･I校

実習体験を口頭で伝達（B校 OSTの実施）
F･I校 手遊びや歌などの保育技術を発表

ポスター発表形式　B･C校

グループで協議してテーマを決め
実習の様子がわかりやすい
ポスターを作成

実習報告会

プレゼンテーション形式

D･E･H校

グループでスライドを作成
その後、質疑応答
コメントレポートの記入（H校）

まとめる力、発表する力がつく
情報を共有し、共感性を持つ
異なる視点を発見し多様性を理解

第4章　第4節　実習事後指導

対象校の実習事後指導の内容

実習報告書・実習振り返りレポート

個人で作成

実習での体験や学びを
整理し、言語化する

実習での学びの
深い掘り下げ

実習報告書

グループで検討後

個人で作成・修正（F・H校）

実習担当をした年齢別（保育園）
事業所の種別（施設）
他、地域別で討議

実習での体験や学びを共有し、
共通する課題を検討→

自己課題
の明確化

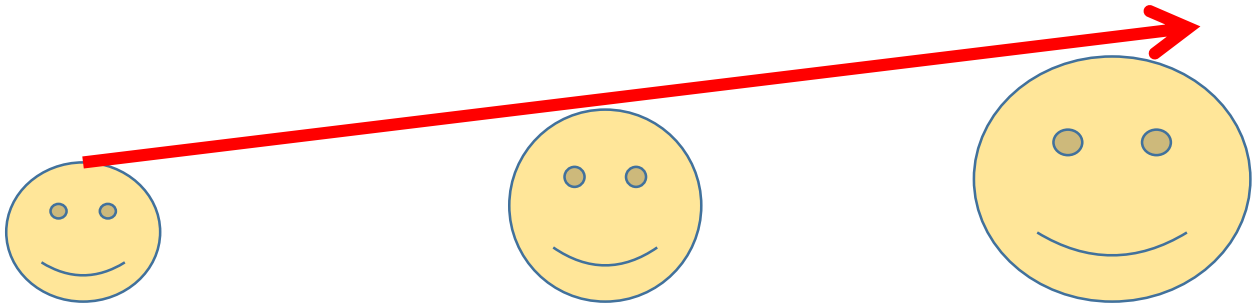
報告書を製本して図書館で保管（C・G校）
下級生が閲覧可能

第4章　第4節　実習事後指導

保育実習統括としての報告レポート（G校）

1つの実習終了後のみでなく
すべての保育実習終了後
最初の実習時の様子から振り返り
統括としてのレポートを作成(A4 2枚）

保育の未熟さ
子ども理解の浅さから
どのように変化し
成長したか意識する



自己成長感

第4章　第4節　実習事後指導

対象校の実習事後指導の内容　　エピソード記録

エピソード記録・場面記録・事例検討

実習で体験した対象（子ども・利用者）との具体的なかかわりなどで
とりわけ印象に残った一場面を、言語化して記録

省察することで、子ども理解を深め　→　保育者としての力量を育てる
保育の手立てを考えることが可能

第4章　第4節　実習事後指導

対象校の実習事後指導の内容　　エピソード記録

エピソード記録・場面記録・事例検討

E校　事前指導から実施　「みる力・書く力」をつけ、事後でも実施
G校　書くことで、自身の保育や子どもの様子を客観的にとらえ直す
D校　エピソードを丁寧に振り返り、子どもの変化の因果関係を考察

E校　一番良かったことを記録
　自己の努力や成果に着目
G校　うまくいかなかったことを記録
　未解決・未消化な事項に着目し省察

→ 自己肯定感や実習の達成度を意識し、成功体験を積み重ねる

→ 今後の保育の手立てを検討する力を育成

第4章　第4節　実習事後指導

対象校の実習事後指導の内容　　実習評価票

実習評価票の開示

E校　評価票を開示し、課題を見つける　→　今後の成長へ誘導

園の評価が日々の授業でみられる本人の力と著しくかけ離れている場合は、個人面談をして様子を聞く

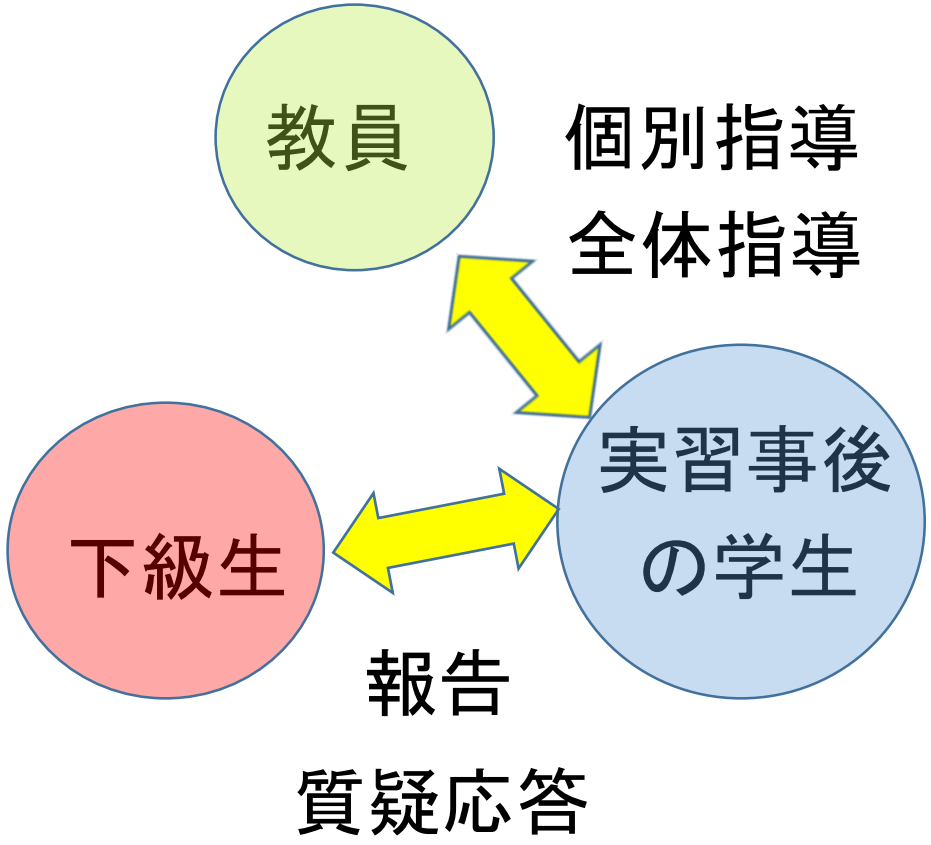
H校　個人面談の際に評価票を開示し、自己評価と比較する

↓

自己課題の把握、次の実習や今後の学びへの意欲化を図る

第4章　第4節　実習事後指導

実習事後指導 の成果



情報共有で共感性をもつ

異なる視点を発見し多様性を理解

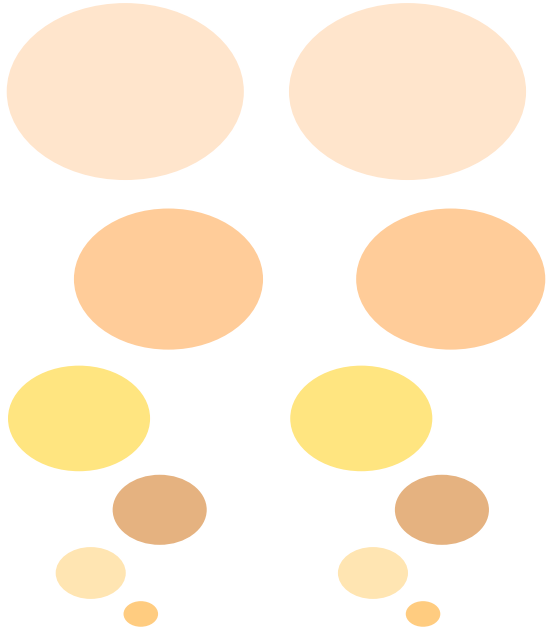
まとめる力・発表する力がつく

自己成長感

自己課題の明確化

第2節

学ぶ際の規模



第４章　第２節　学ぶ際の規模

規模ごとの実習事前指導の内容

個人での学び☺

目標と課題の記載
観察保育の記録
指導案の作成
エピソード記録の実施

グループでの学び☺☺☺

目標と課題を見合う
教材研究・模擬保育
PCで作成した指導案データのやりとり

クラス・学年での学び☺☺☺☺…

模擬実習を見聞きし、
指導例を吸収

学年を越えての学び☺☺☺… ☺☺☺…

報告会で上級生の実習体験を聞く
ポスター発表や“先輩ゼミ”に参加

第４章　第２節　学ぶ際の規模

規模ごとの実習事後指導の内容

個人での学び☺

報告書・振り返りシート
自己評価票
エピソード記録の実施
実習統括報告レポート

グループでの学び☺☺☺

グループディスカッション
ポスター作成
配役をし、模擬保育を実施

クラス・学年での学び☺☺☺☺…

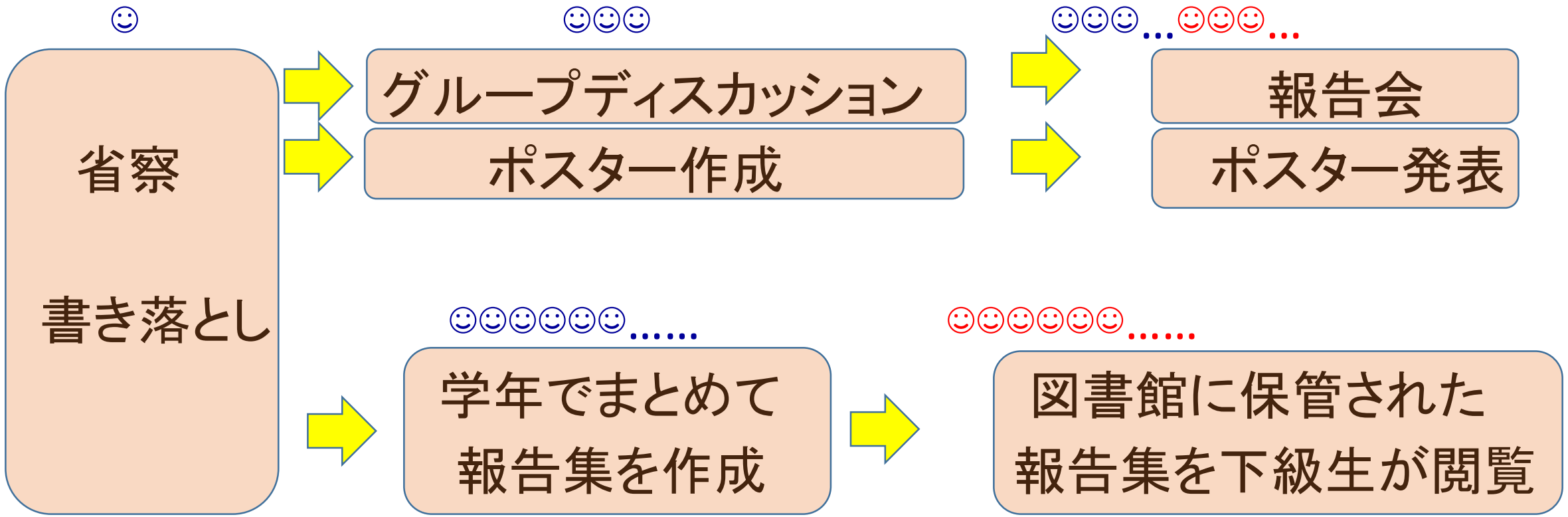
報告会
実習報告集の作成

学年を越えての学び☺☺☺… ☺☺☺…

報告会で下級生に実習体験を話す
ポスター発表で下級生に説明
“先輩ゼミ”で実習での学びを伝える

第4章　第2節　学ぶ際の規模

実習事後指導の内容と学ぶ規模の変化（小→大）



第4章　第2節　学ぶ際の規模

実習事後指導の内容と学ぶ規模の変化（大→小）

☺☺☺

実習日誌
を見合う

☺

自己評価票
の記載

☺☺☺☺☺☺……

3分間スピーチで発表
①自己課題の達成度
②指導を受けての改善点

他者と比較することで
客観視できる

第４章　第２節　学ぶ際の規模

実習事前･実習事後指導の内容と学ぶ規模の変化（小⇔大）

☺

目標･課題
の設定

☺☺☺

目標･課題
を見合う

☺

再び目標･課題の内容を
具体的に深めて完成

☺☺☺

表現系
教材研究

☺

教材研究ファイル
（取り組み帳）を作成

☺☺☺☺☺☺……

教材研究
発表会

第4章　第2節　学ぶ際の規模

実習事後指導の内容と学ぶ規模の変化（小⇔大）

☺☺☺

ポスター
作成

☺☺☺… ☺☺☺… ☺☺☺…

ポスターセッション
（下級生・入学予定者も参加）

☺☺☺

振り返りの
ワーク

☺

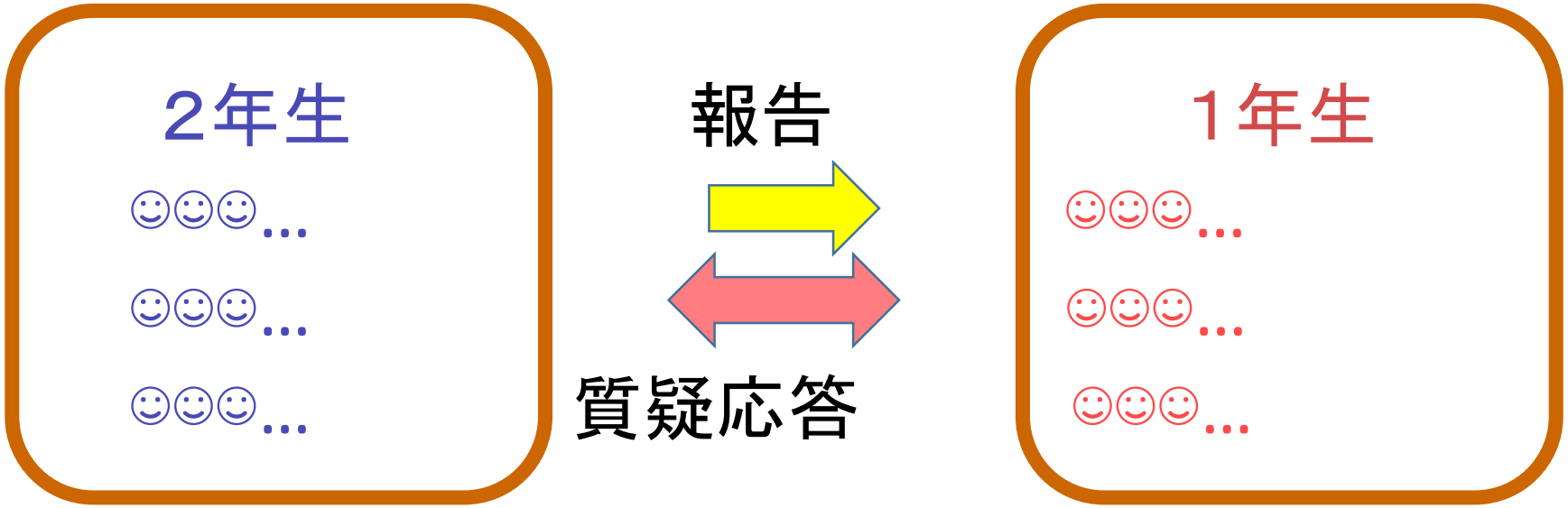
レポートの記載

第4章　第2節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び （異学年交流） ☺☺☺… ☺☺☺…

2年制養成校（A・B・C・E・F校） 報告会等 で交流

C校（2年制）　全体での報告会

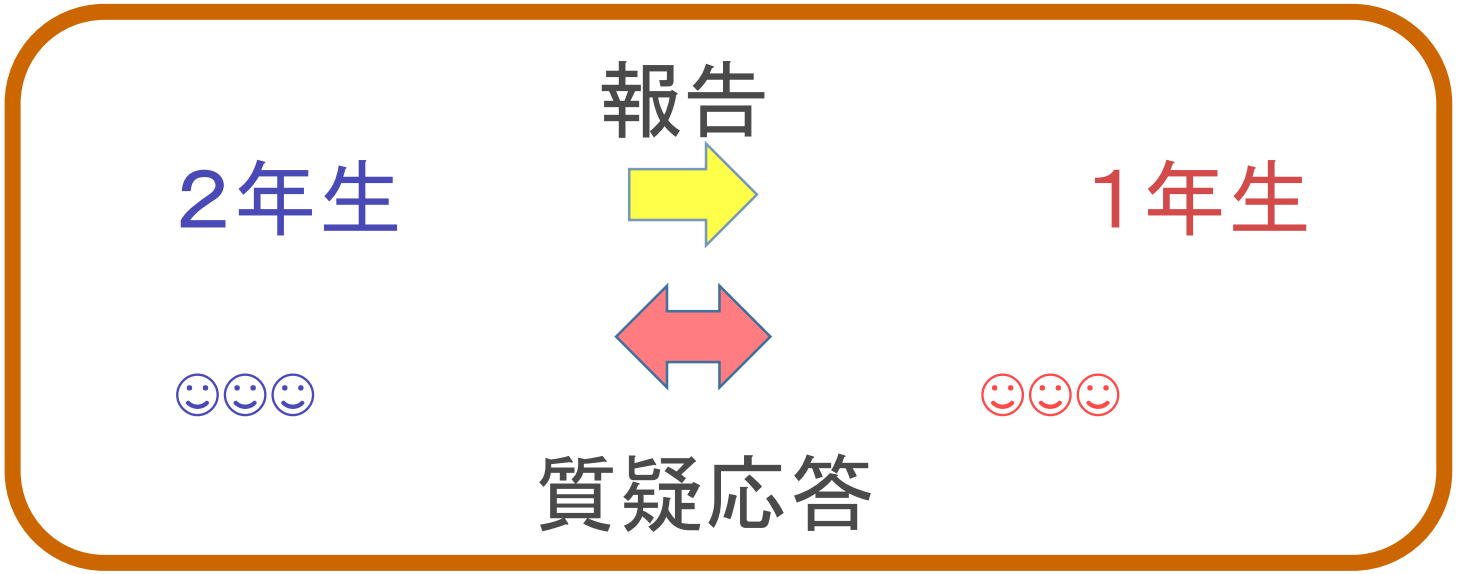


第４章　第２節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び （異学年交流） ☺☺☺… ☺☺☺…

２年制養成校（A・B・C・E・F校） 報告会等 で交流

E校（２年制）　学年混合で実習対象年齢別など部屋に分かれての報告会

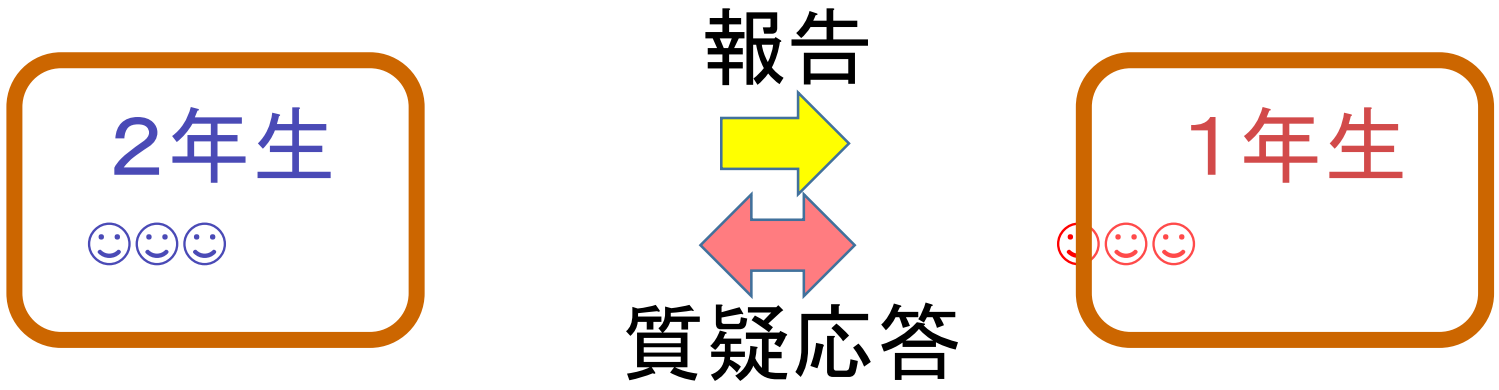


第４章　第２節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び　（異学年交流）　☺☺☺… ☺☺☺…

２年制養成校（A・B・C・E・F校）　報告会等　で交流

A校（２年制）　２年生グループのブースを１年生グループが回る



第４章　第２節　学ぶ際の規模

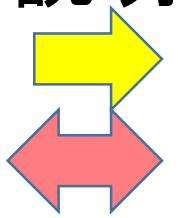
学年を越えての学び　（異学年交流）　☺☺☺… ☺☺☺… ☺☺…

２年制養成校（A・B・C・E・F校）　報告会等　で交流

B校（２年制）　ポスターセッション

２年生
☺☺☺

説明



セッション

１年生　☺

入学予定者　☺

教員　☺

第4章　第2節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び　（異学年交流）　☺☺☺… ☺☺☺…

２年制養成校（A・B・C・E・F校）報告会等で交流

F校（2年制）　合同プログラム（実習指導の授業内／2年生主導）

実習内容を伝達

２年生　☺☺☺

1年生　☺☺☺

質疑応答

コメント

絵本の読み聞かせ

手遊び・パネルシアターの披露

第４章　第２節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び （異学年交流） ☺☺☺… ☺☺☺…

４年制養成校（G･H･I校） 報告会 で交流

H校（４年制）　全体での報告会　全学にアナウンス　自由参加

４年生
☺☺☺…
☺☺☺…
☺☺☺…

報告

質疑応答

３年生☺…☺…
２年生☺…☺…
１年生☺…☺…
教員　☺…☺…

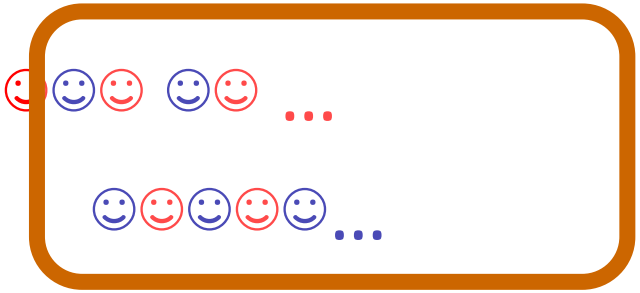
第４章　第２節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び （異学年交流）

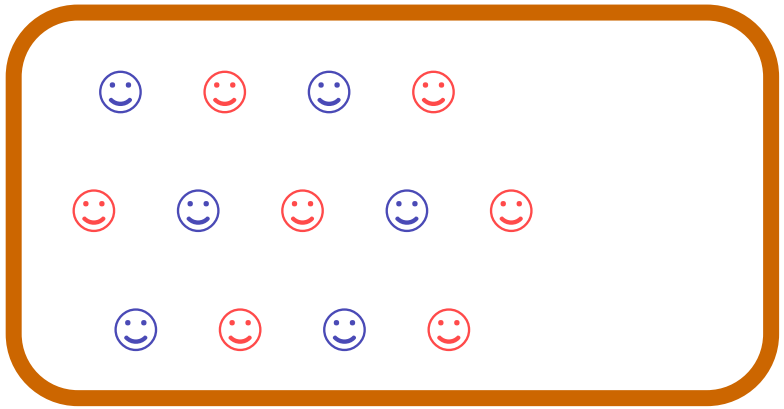
４年制養成校（G・H・I校）報告会 で交流

I校（４年制）　全体での報告会　席が交互になるよう工夫

上級生　　報告　　下級生



報告会後
情報交換会

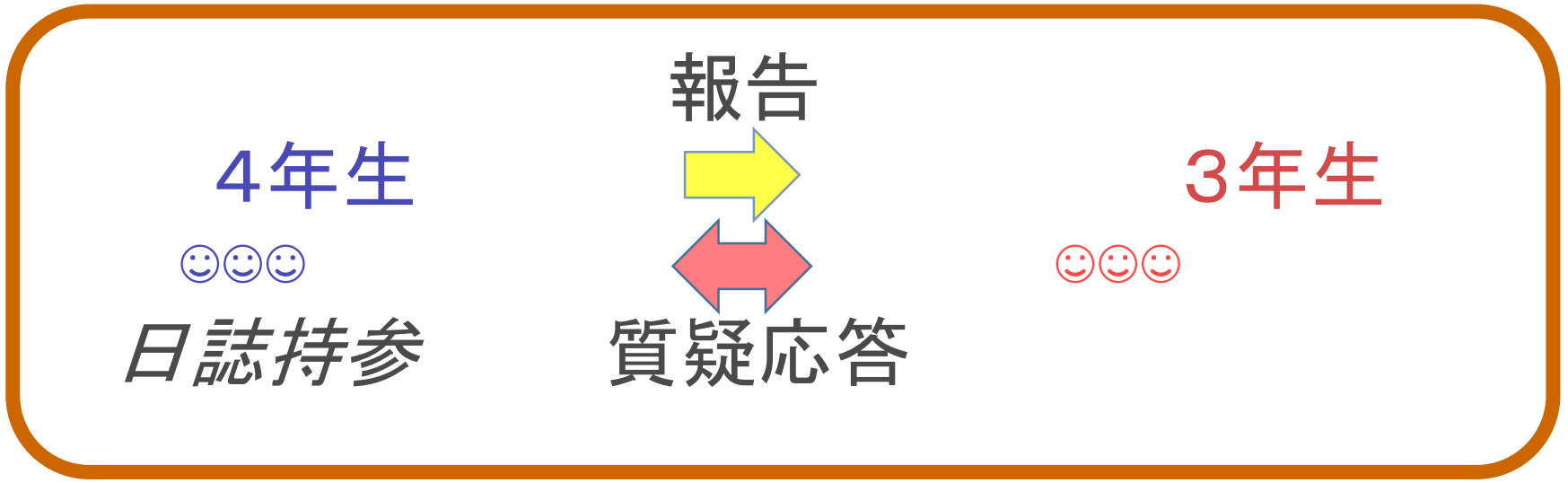


第４章　第２節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び　（異学年交流）　☺☺☺… ☺☺☺…

４年制養成校（G・H・I校）　報告会等　で交流

G校（４年制）　“先輩ゼミ”で施設別に部屋に分かれての報告会



第4章　第2節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び（異学年交流）の**成果**

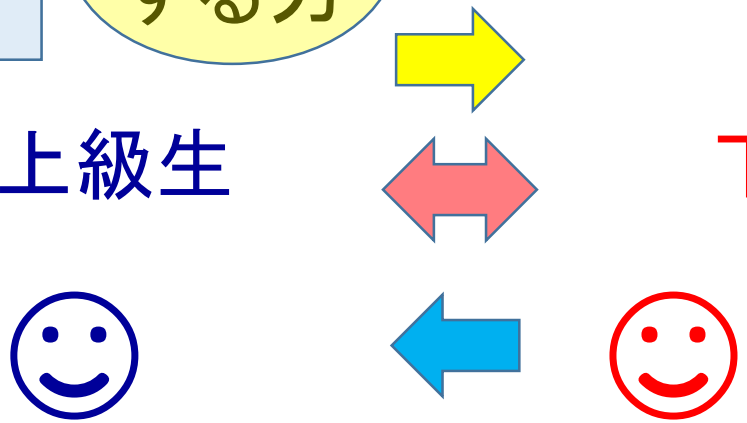
下級生に報告することで力がつく

発表する力

具体的な実習の様子や日誌・指導案の内容を知る

まとめる力

上級生



下級生

不明点を確認できる

運営する力

“先輩”にしてもらう

技術を披露しコメントをもらうことで向上する

第４章　第２節　学ぶ際の規模

学年を越えての学び （異学年交流） の**制約**

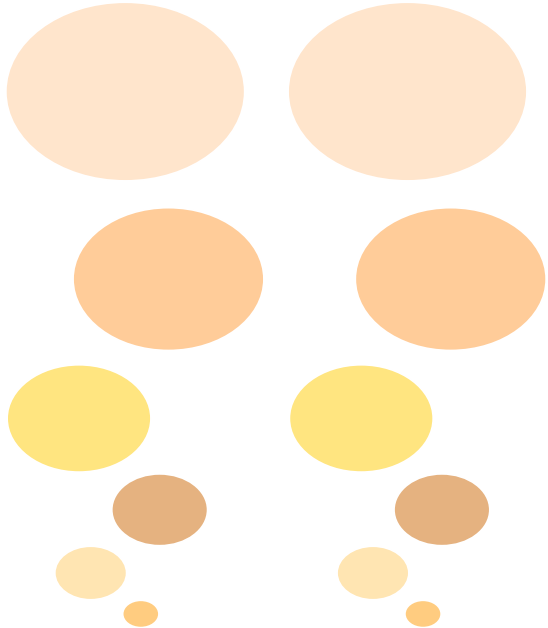
時間割編成などを工夫する必要がある

F校（２年制）　１．２年とも実習関係の授業を同一曜日に編成

D校（２年制）　両学年の時間割を合わすことが難しく、
１．２年の交流ができていない

第５節

連携を活かした指導



第４章　第５節　連携を活かした指導

学内連携

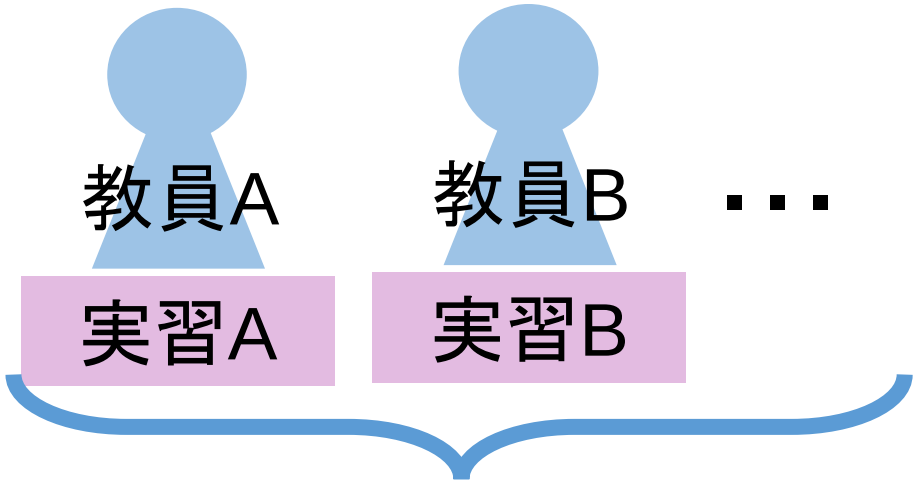
- ✓ 担当教員間
- ✓ 学科内教員間
- ✓ 他学科教員間

学外連携

- ✓ 体験的実習・ボランティア
- ✓ 他大学との連携
- ✓ 地域との連携

第4章　第5節　連携を活かした指導

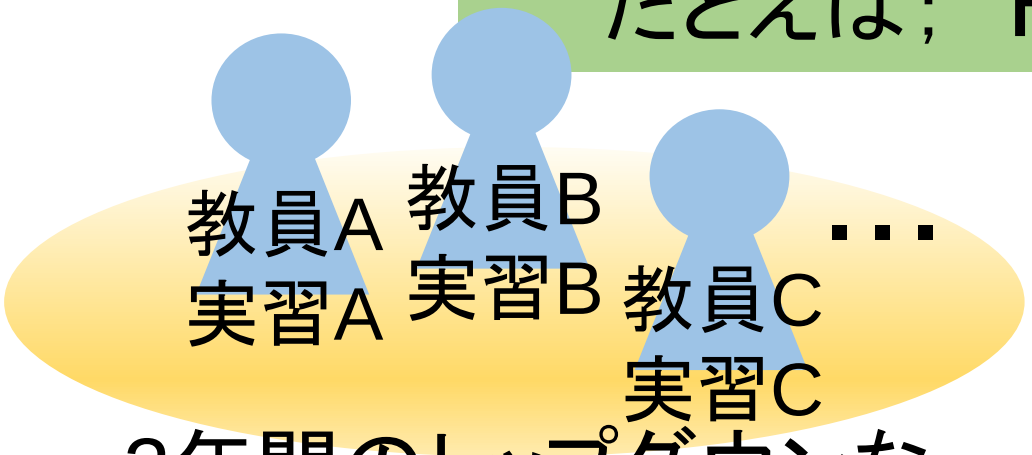
- 担当教員間連携



責任の明確化
→ 実習指導の充実化

たとえば；　B校

たとえば；　F校



2年間のトップダウンな
実習指導計画

たとえば；　I校

すべての実習指導
→ 全体を把握

第４章　第５節　連携を活かした指導

実習委員会

- ✓ 学生の把握
- ✓ 経験や教育歴の浅い教員も

＋ 共有空間

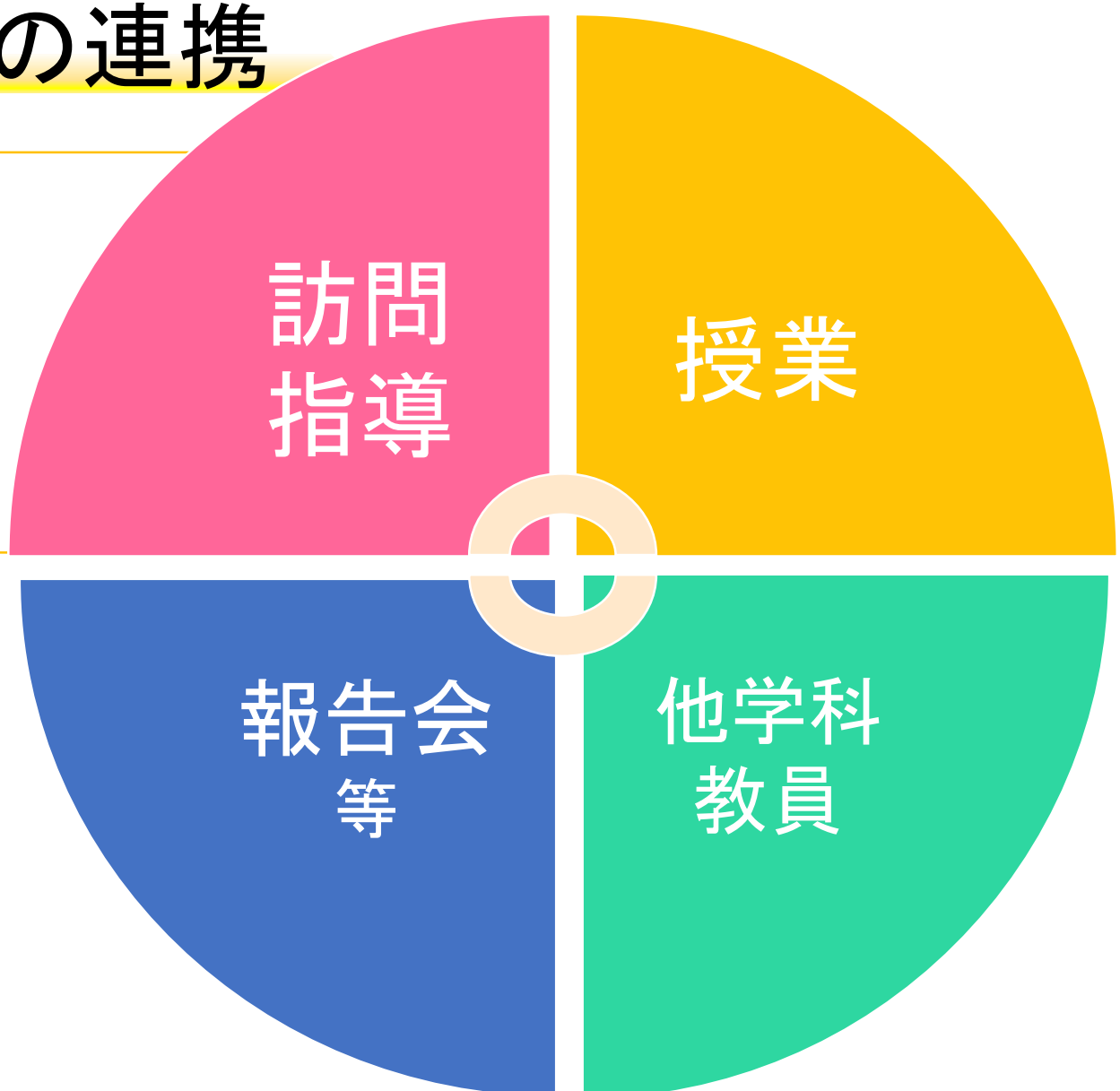
- ✓ 非公式で日常的な情報共有

第４章　第５節　連携を活かした指導

- 非担当教員との連携

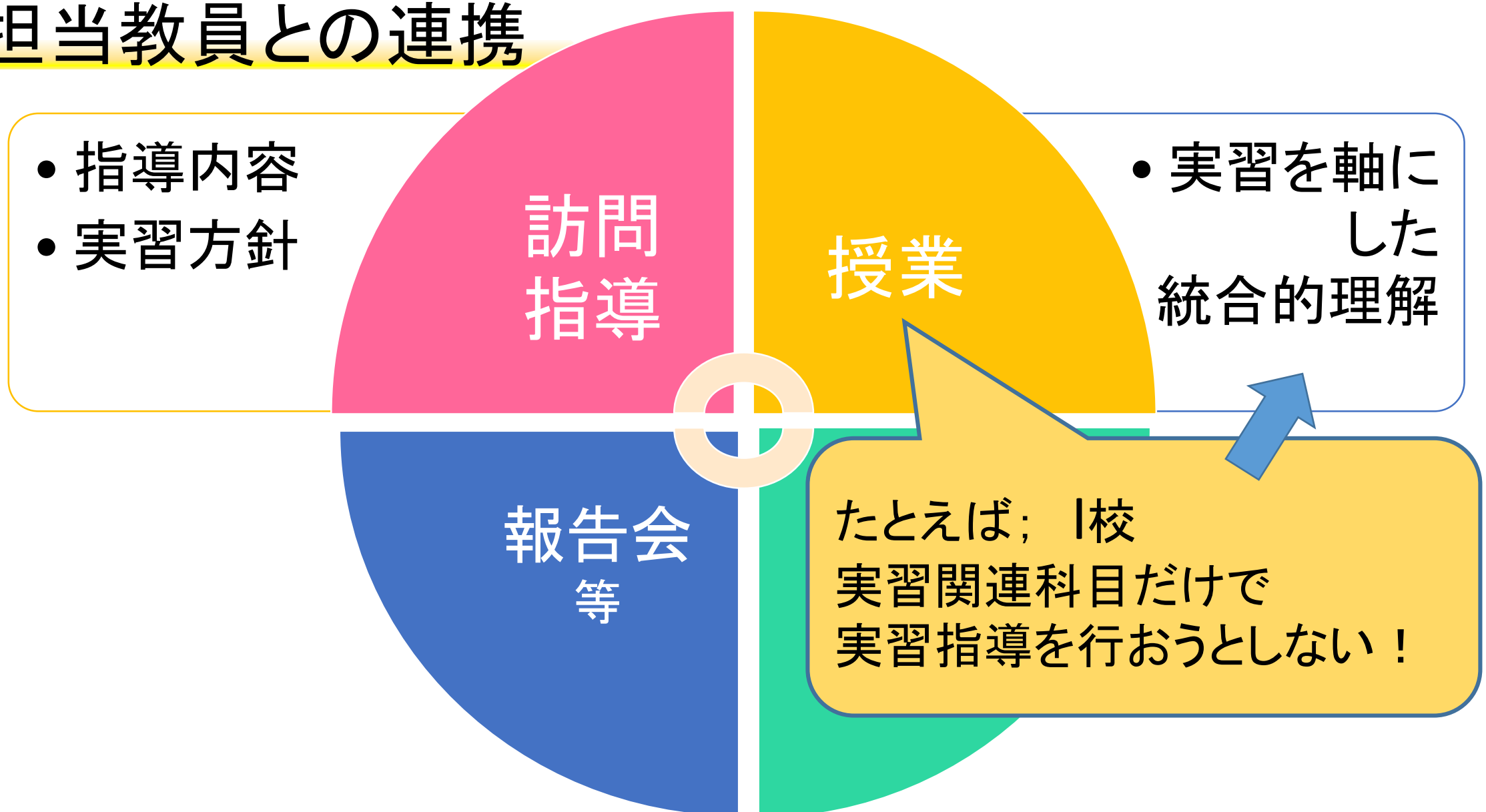
- 指導内容
- 実習方針

異なる立場でも
必要性



第４章　第５節　連携を活かした指導

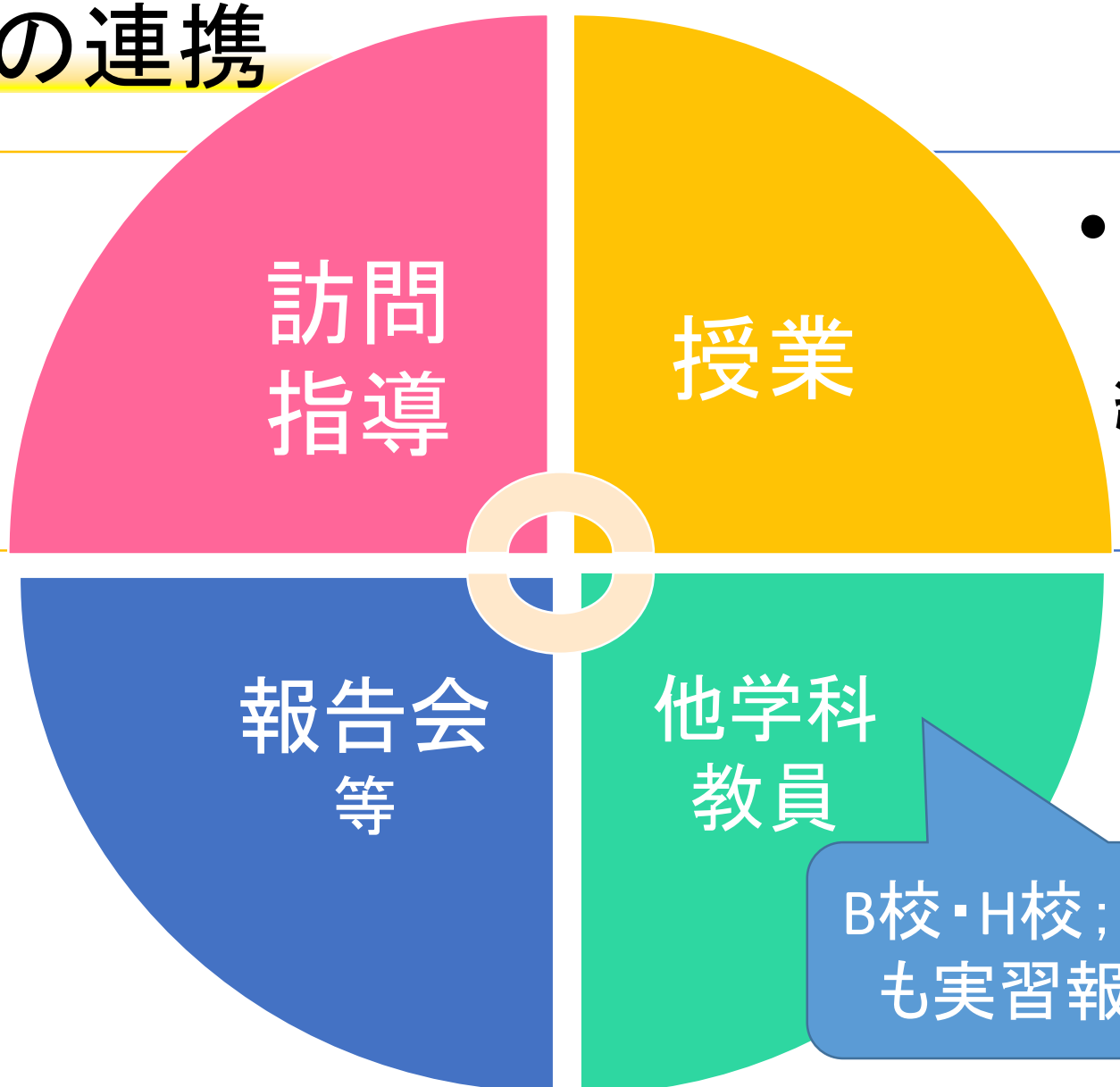
- 非担当教員との連携



第４章　第５節　連携を活かした指導

•非担当教員との連携

- 指導内容
- 実習方針

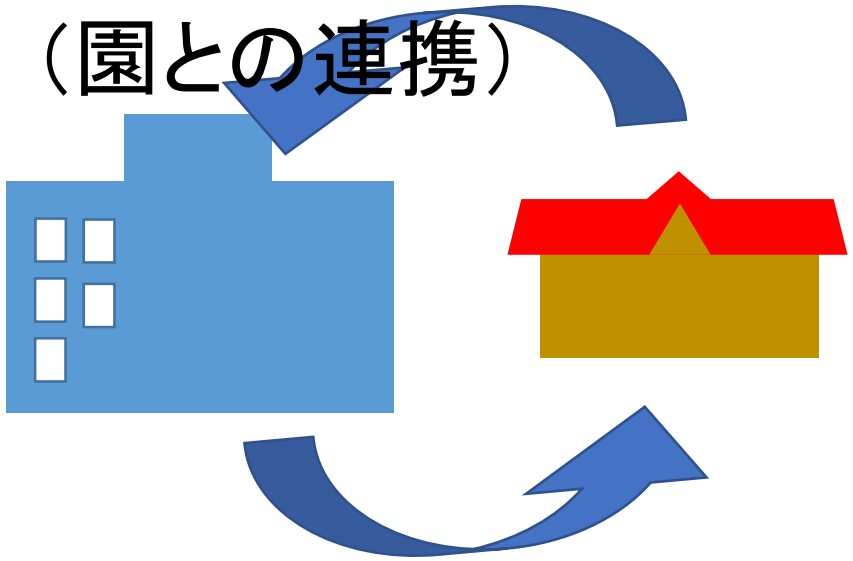


- 実習を軸にした
統合的理解

B校・H校；　他学科教員も実習報告会に参加

第４章　第５節　連携を活かした指導

体験的実習・ボランティア（園との連携）



✓ 卒業生＝先輩保育者との連携

他大学との連携

たとえば；　B校

✓ 実習評価表や手引きの統一

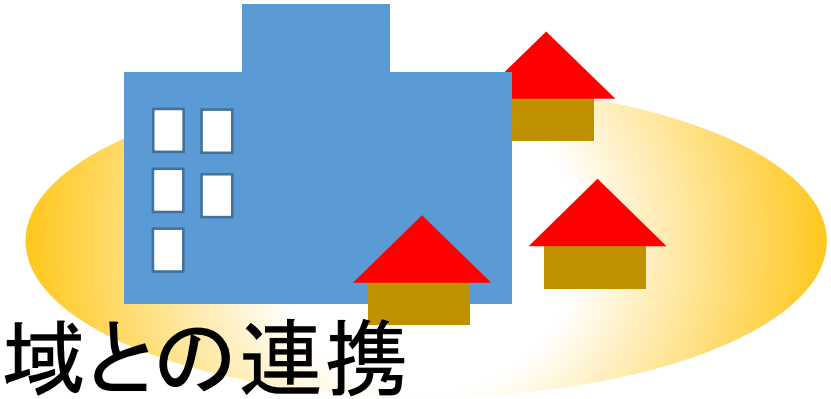
たとえば；　I校

✓ 定期的な研修会

第４章　第５節　連携を活かした指導

たとえば；　I校

✓ 公立園ボランティア→公立園受験・採用



地域との連携

たとえば；　B校

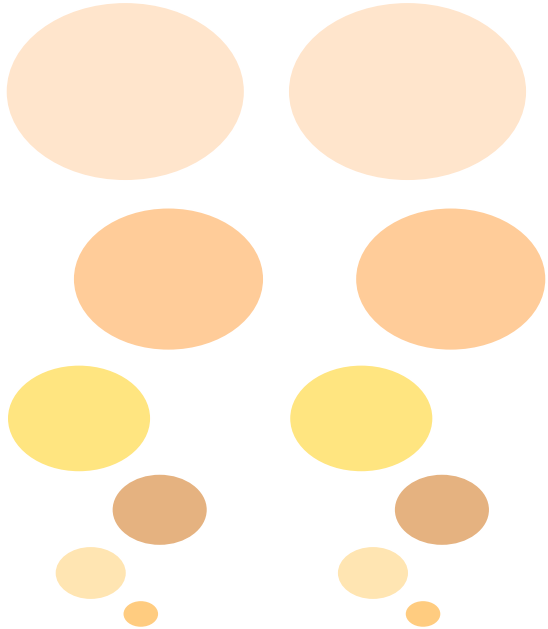
✓ 入学予定の高校生を
招待した実習報告会

たとえば；　C校、F校

✓ 近隣園から外部講師

第６節

カリキュラムの工夫



第4章　第6節　カリキュラムの工夫

カリキュラム改正

授業時間の確保
→　事前事後指導の充実

実習指導に一定の効果

実習指導は十分？
✓　事前事後指導のはみだし

第4章　第6節　カリキュラムの工夫

カリキュラム改正

- 実習時期に合わせて通年で15コマ
- 他の科目で事後指導
- 時間外のコマを取って

実習指導に一定の効果

実習指導は十分？

✓ 事前事後指導のはみだし

第４章　第６節　カリキュラムの工夫

カリキュラム改正

連続性；

保育実習Ⅰ

↓

Ⅱ　または　Ⅲ

たとえば；　E校

✓ 保育実習Ⅰ(施)終了後にⅡとⅢを選択

第4章　第6節　カリキュラムの工夫

連続性；

保育実習

↓↑

幼稚園での教育実習

たとえば；　B校など

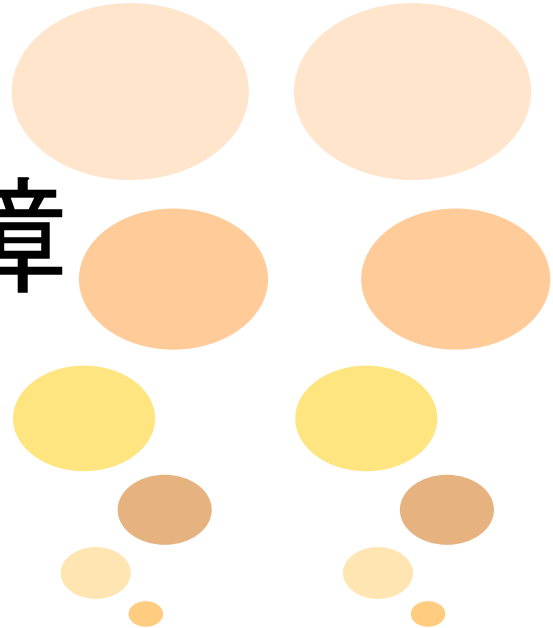
✓ 教育実習(幼)

＝保育実習に先立つ体験

過密な学び

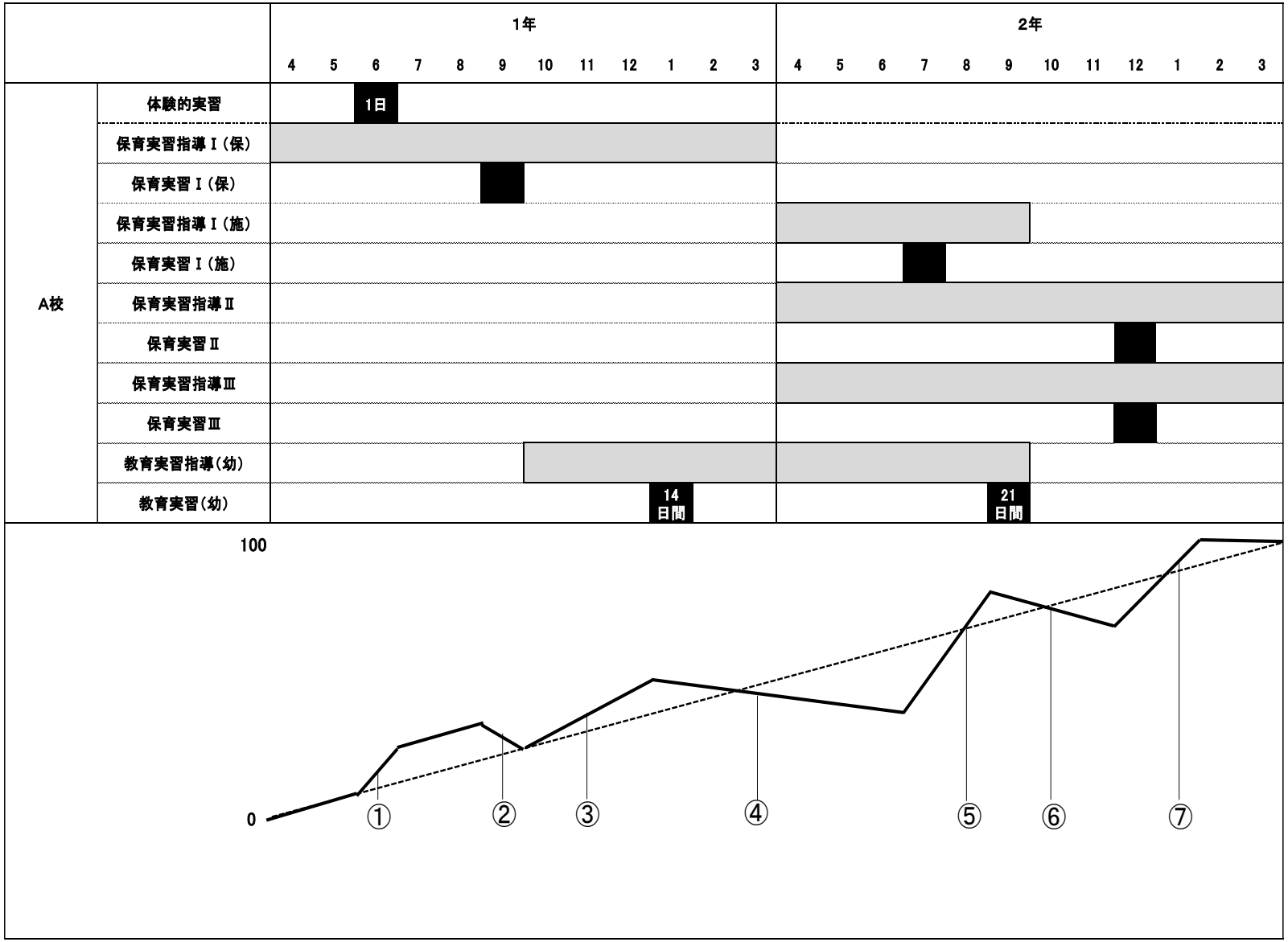
第7節

学生の自己成長感の保障



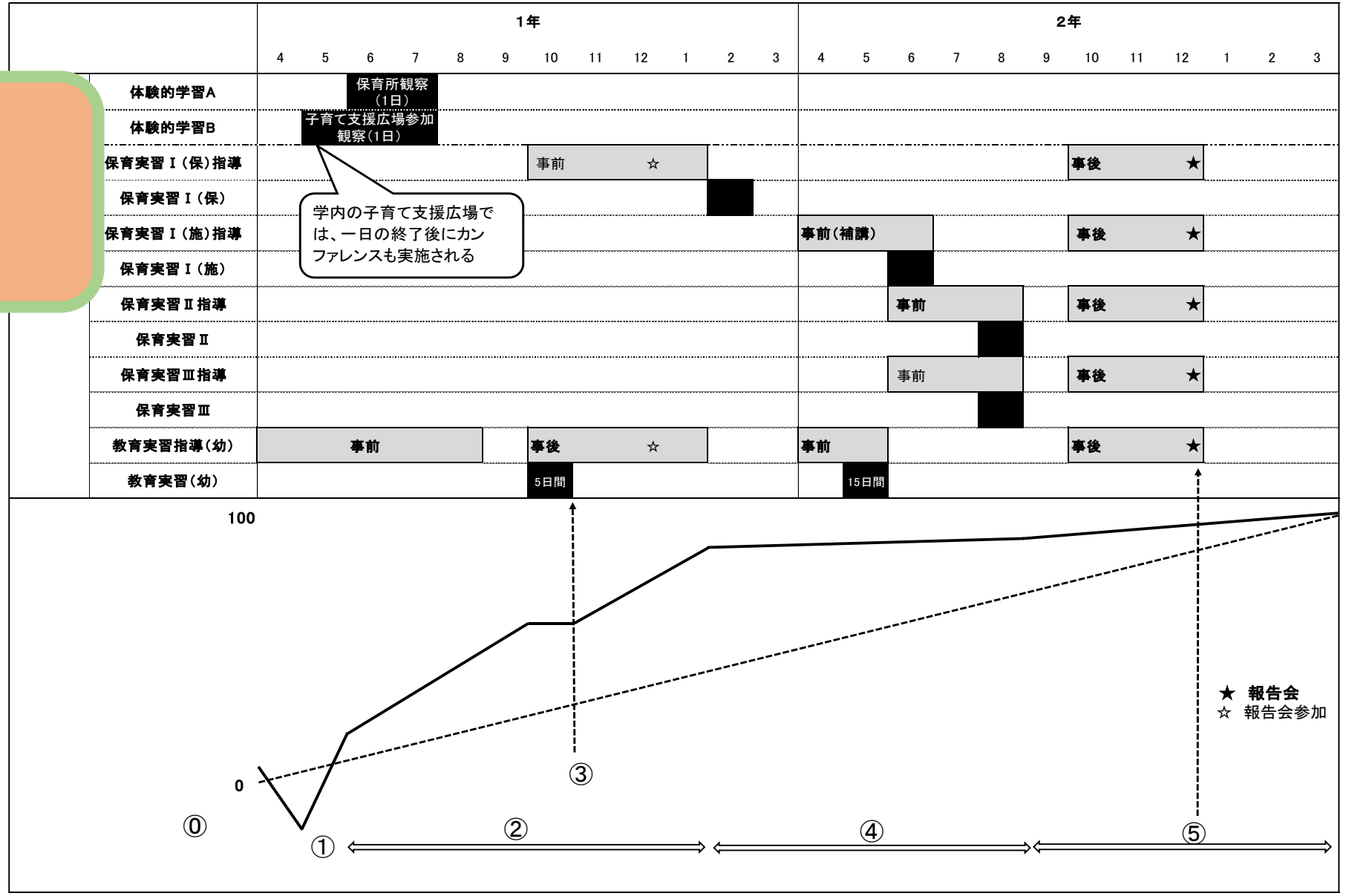
第4章　第7節　学生の自己成長感の保障

成長曲線

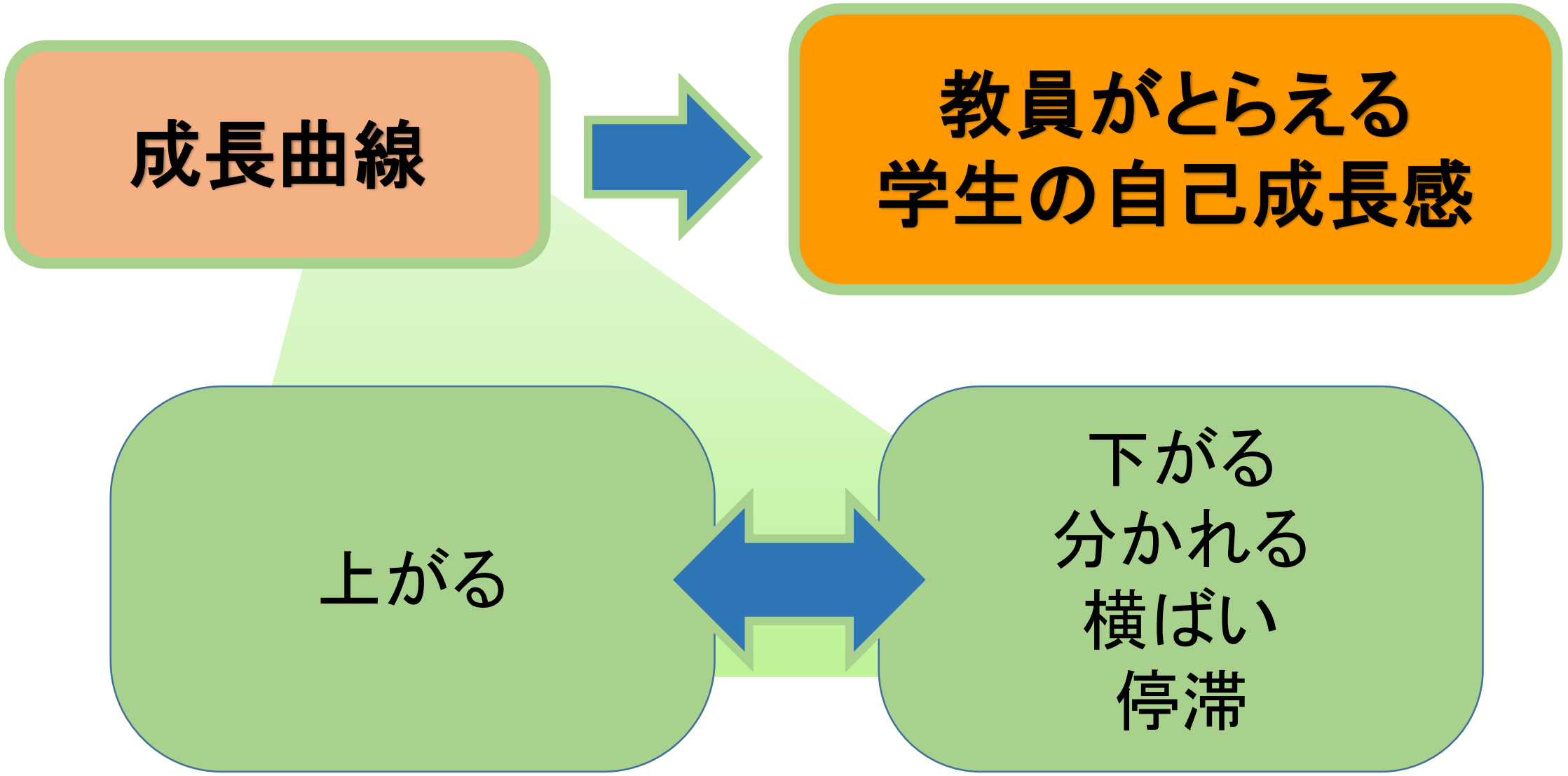


第4章　第7節　学生の自己成長感の保障

成長曲線



第4章　第7節　学生の自己成長感の保障



第4章　第7節　学生の自己成長感の保障

成長曲線

上がる

たとえば；　D校など

- ✓ 本格的にはじめて
  乳幼児や施設児と接触

たとえば；　C校、F校

- ✓ 現場体験を「書く」

直接的な現場体験

接触経験の不足

＋

書く→ 可視化

成長の把握

第4章　第7節　学生の自己成長感の保障

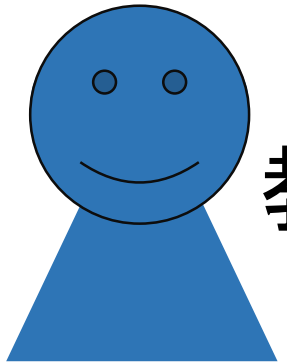
成長曲線

上がる

伝えるための可視化

下級生という他者視点

経験の可視化



教員；実習に経時的に立ち会えない

→学生の成長の把握 →事後指導の重要性

第4章第7節 学生の自己成長感の保障

成長曲線

上がる

間接経験としての成長

高校生の実習報告会参加（B校）

自覚を促すオリエンテーション参加（G校）

異学年の実習報告会（下級生）

間接経験

実習へのモチベーション

モチベーションの伝染

第4章第7節　学生の自己成長感の保障

成長曲線

下がる
分かれる
横ばい・停滞

実習が立て続け・整理できないまま（B校）

ハードスケジュール（D校）

→ 限られた学修年限・実習スケジュールの制約

実習

→ 不安
指導案がハードル（A校）

第4章第7節 学生の自己成長感の保障

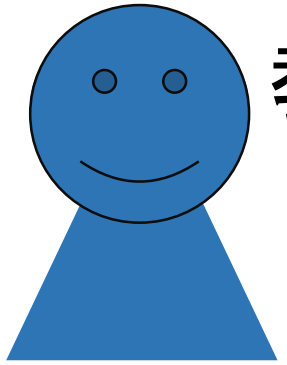
成長曲線

下がる
分かれる
横ばい・停滞

横ばいだが、
力を蓄える
時期（F校）

これまでの
イメージを
壊す（B校）

(実習後の落ち
込みへの)
反転学習（I校）



教員；
どの時点でマイナスの成長を経験するか
→ 成長しない時期の意味

第4章第7節 学生の自己成長感の保障

教員がとらえる学生の成長

資格にふさわしい最低基準という制約

- ✓「下がる」「横ばい」「停滞」など
- ✓「成長を感じるのは不安を抱いているとき」(H26報告)
- → マイナスも長期的には成長

下がったり停滞したりする成長の猶予期間を置いたうえで、
養成期間を俯瞰することの重要性

第５章

新たなる実習指導への視座

第５章　第１節

カリキュラムの視点から
実習指導をとらえなおす

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

- 保育実習Ⅰ（保育所）→　おおむね10日間
- 保育実習Ⅰ（施設）→　おおむね10日間
- 保育実習Ⅱ又はⅢ　→　おおむね10日間
- 教育実習（幼稚園）→

2週間

2週間

2週間

4週間

10週間

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

入学

卒業

2週間

2週間

2週間

4週間

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

入学

卒業

養成期間の
前半部分

2週間

2週間

2週間

4週間

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

入学

卒業

保育実習に先立つ
体験的実習
の取り組み

64%

2週間

2週間

2週間

4週間

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

入学

卒業

2週間

2週間

2週間

1週

3週間

最初の実習が幼稚園実習

40%

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

入学

卒業

保育実習に先立つ
体験的実習
の取り組み

1週

2週間

2週間

2週間

3週間

最初の実習が幼稚園実習

40%

養成期間の前半に行う「体験的実習」のねらいとは

①具体的な子ども像や保育のイメージを早期に獲得する

②保育職への意識の自覚を継続的に育成

③本格的な実習を行う前の、保育者の基本要素を学ぶ

④言葉遣いなど、社会人としての必須事項を学ぶ

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

入学

卒業

養成期間の前半で行う実習
意義の再認識

2週間

2週間

2週間

3週間

実習全体を10週間でデザインする

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

前　　期

後　　期

夏期休暇

保育実習指導Ⅱ

＜事前指導＞

<事後指導>

保育実習
Ⅱ
2週間

十分に時間を確保し
取り組まれている

実習指導の時間内
実施することが難しい

保育実習Ⅰ（施設）

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

前　　期

後　　期

夏期休暇

保育実習 指導Ⅱ

＜事前指導＞

<事後指導>

保育実習
Ⅱ
2週間

十分に時間を確保し
取り組まれている

他の科目の時間を
利用して実施 **多い**

保育実習Ⅰ（施設）

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

事後指導の課題

（1）実施する時間がとりにくい（カリキュラム上確保しにくい）

（2）別の科目の時間を利用して実施することが求められる

（3）少ない時間で「まとめ」や「ふりかえり」を行うことになる

（4）実習担当教員のシャドーワークとなっている？

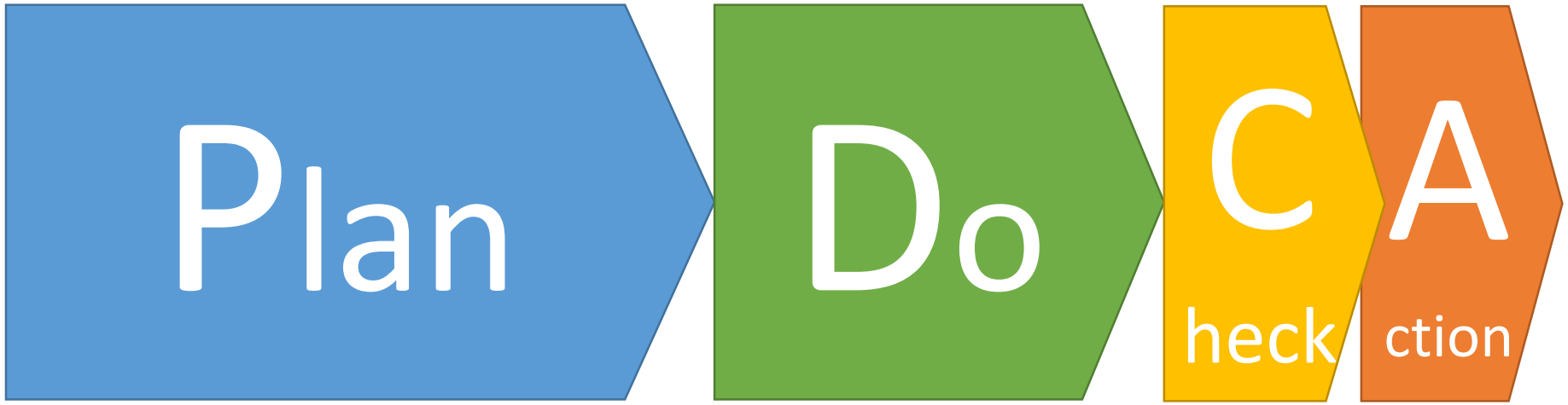
カリキュラム全体を含めた
実習システムの改変が必要なのでは？

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

＜事前指導＞

保育実習
Ⅱ
2週間

<事後指導>



第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

＜事前指導＞

保育実習
Ⅱ
2週間

<事後指導>

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

「実習」は学習成果の総仕上げではない！

「事後指導」が次の成長へのカギとなる

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

事後指導の役割をとらえなおす

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

事後指導は 実習の学びの「可視化」である

実習中の学生の学びや成長の様子

確認できる場は「事後指導」

第1節 カリキュラムの視点から実習指導をとらえなおす

確認できる場は「事後指導」

事後指導

疑問

悩み・不安

学び・気づき

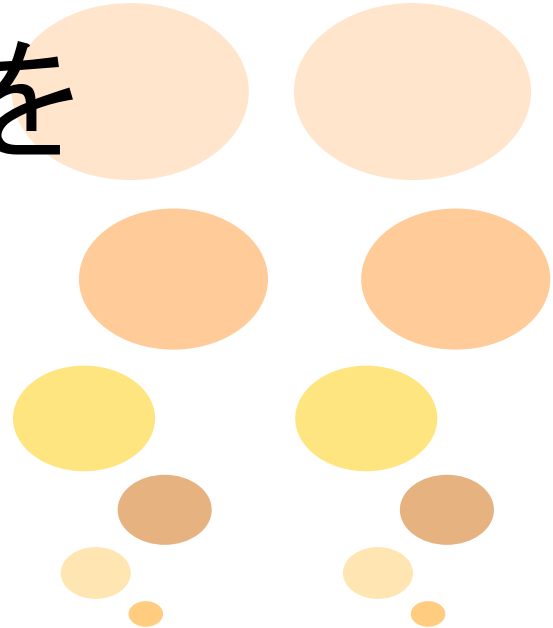
確認
整理
共有
解消
理解

自身の
成長認識

課題発見

第２節

学生のさらなる自己成長を保障するために



第2節　学生のさらなる自己成長を保障するために

保育者の専門性は経験を追って成長するものである

H24・25 専門委員会課題研究報告

学び続けること、成長し続ける姿勢

を確立することが大切となる

第2節　学生のさらなる自己成長を保障するために

学び続けること、成長し続ける姿勢

「養成校」においては **学生の自己成長をどう保障するか？**

自己の成長を感じられる”場”
をどのように設定するか

第2節　学生のさらなる自己成長を保障するために

自己の成長を感じられる”場”　**「異学年交流」**

（1）コミュニケーションの成長

・自身の経験の伝達や対話の場として

・ほどよい緊張でのフォーマルな話し方や伝え方

・社会人基礎力の育成とつながる

第2節　学生のさらなる自己成長を保障するために

自己の成長を感じられる”場”　**「異学年交流」**

（2）成長モデルという存在と見通し

・生き生きと経験を語る先輩の姿

・あこがれを見出すことと成長への期待

・手の届きそうな姿が成長への見通しとなる

自己の成長を感じられる”場”

「異学年交流」

（3）伝えることで自分の成長や変化を可視化

・「伝える」という活動は「表現」が必要

・自分の学びを表現することで成長を自覚化

・成長の可能性と肯定的な自己理解と期待

第3節

実習指導を柱とした保育者養成の展望

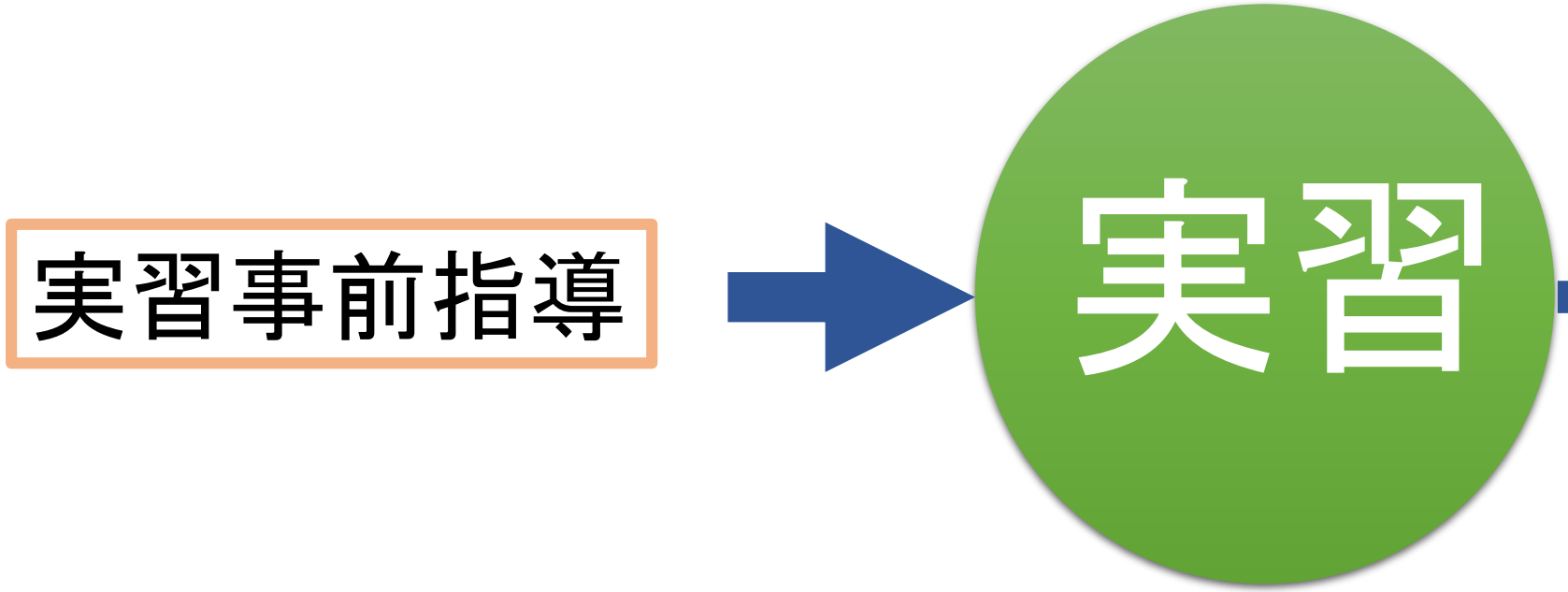
第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

実習

学生の成長確認の場

”事後”指導

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望



第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

諸　科　目

保育者論　　器楽・音楽
保育の心理学　　子どもの保健
保育内容・総論　　保育課程論
児童家庭福祉　　幼児体育
相談支援　　etc・・・

実習事前指導

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

実習

学生の成長確認の場

”事後”指導

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

実習 → ”事後”指導　学生の成長確認の場

諸　科　目

保育者論
保育の心理学
保育内容・総論
児童家庭福祉
相談支援

器楽・音楽
子どもの保健
保育課程論
幼児体育
保育・教職実践演習

保育原理
領域・環境
領域・人間
領域・言葉
領域・表現

etc ・・・

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

実習

”事後”指導

学生の成長確認の場

諸　科　目

保育者論　器楽・音楽　保育原理

諸科目と連携しつつ
学生の成長の確認を！

相談支援　保育・教職実践演習

領域・表現

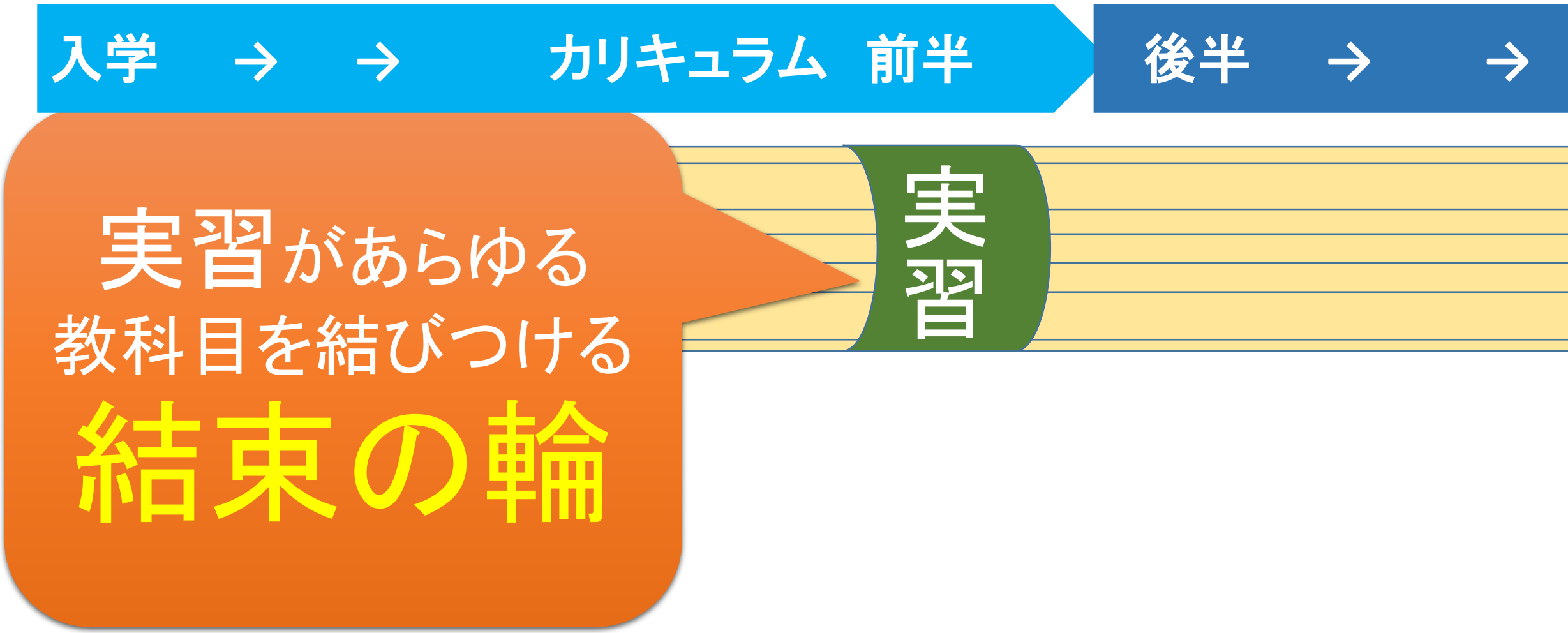
etc ・・・

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

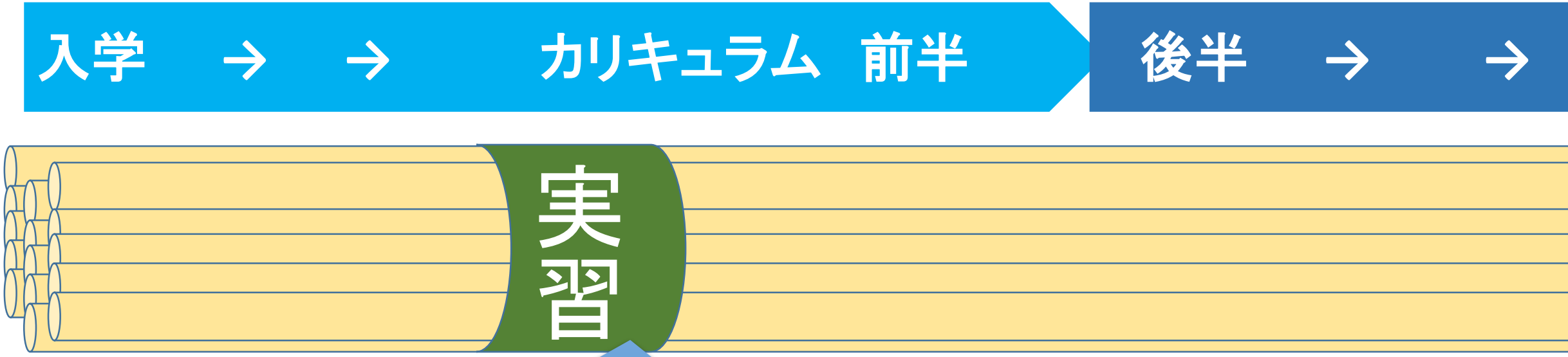
- 保育者論
- 保育の心理学
- 保育内容・総論
- 児童家庭福祉
- 相談支援
- 器楽・音楽
- 子どもの保健
- 保育課程論
- 幼児体育
- 保育・教職実践演習
- 器
- 子
- 保
- 幼
- 実

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

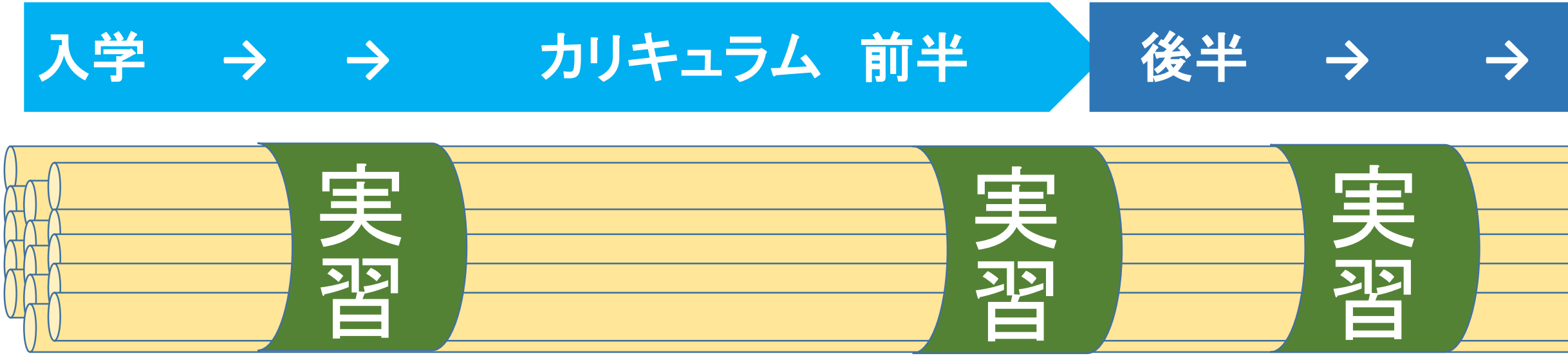


第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望



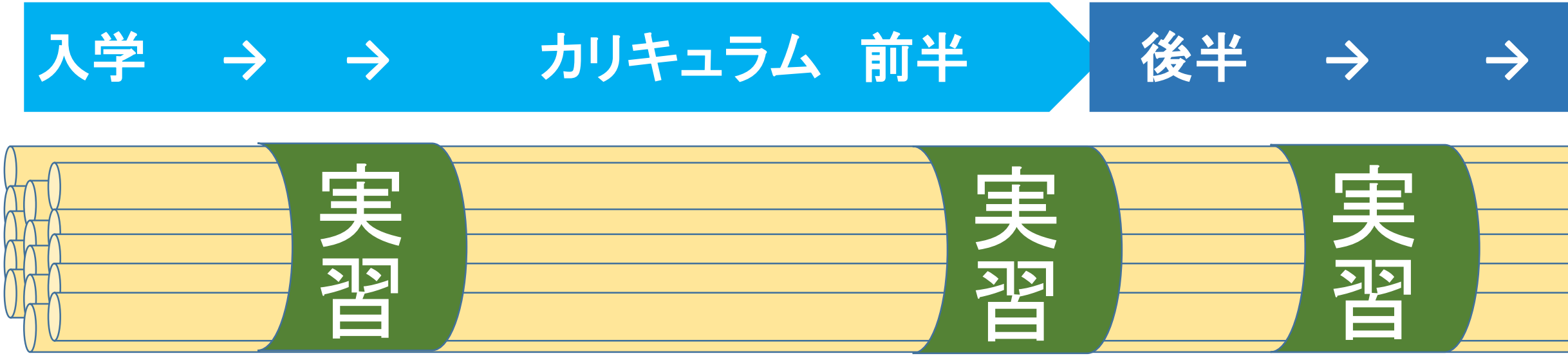
カリキュラムの前半の
早い段階で「体験的実習」

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望



学生の状況を踏まえて自由度をもった
カリキュラム編成の必要性があるのではないか

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望



各教科担当者（実習非担当者）も
実習後の学びや成長の確認を！

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

事後指導の確保と教科目との往還により実習の総括と改善へ向けた取り組みができるために

保育実践演習の活用

履修カルテやポートフォリオ等を用いての

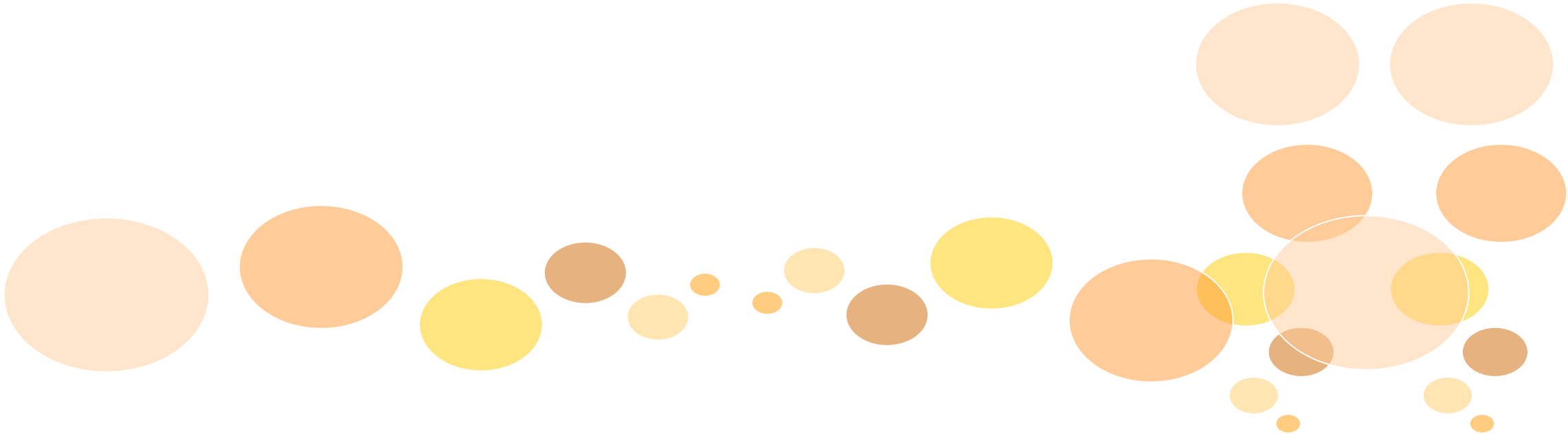
入学からの**自己の成長**の振り返り

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

学び続けること、成長し続ける姿勢をもった保育者の養成

第3節　実習指導を柱とした保育者養成の展望

おわりに



おわりに

ヒアリングにご協力いただきました
9校の先生方

まことにありがとうございました

おわりに

設置種別　　地域の特性　ブロック

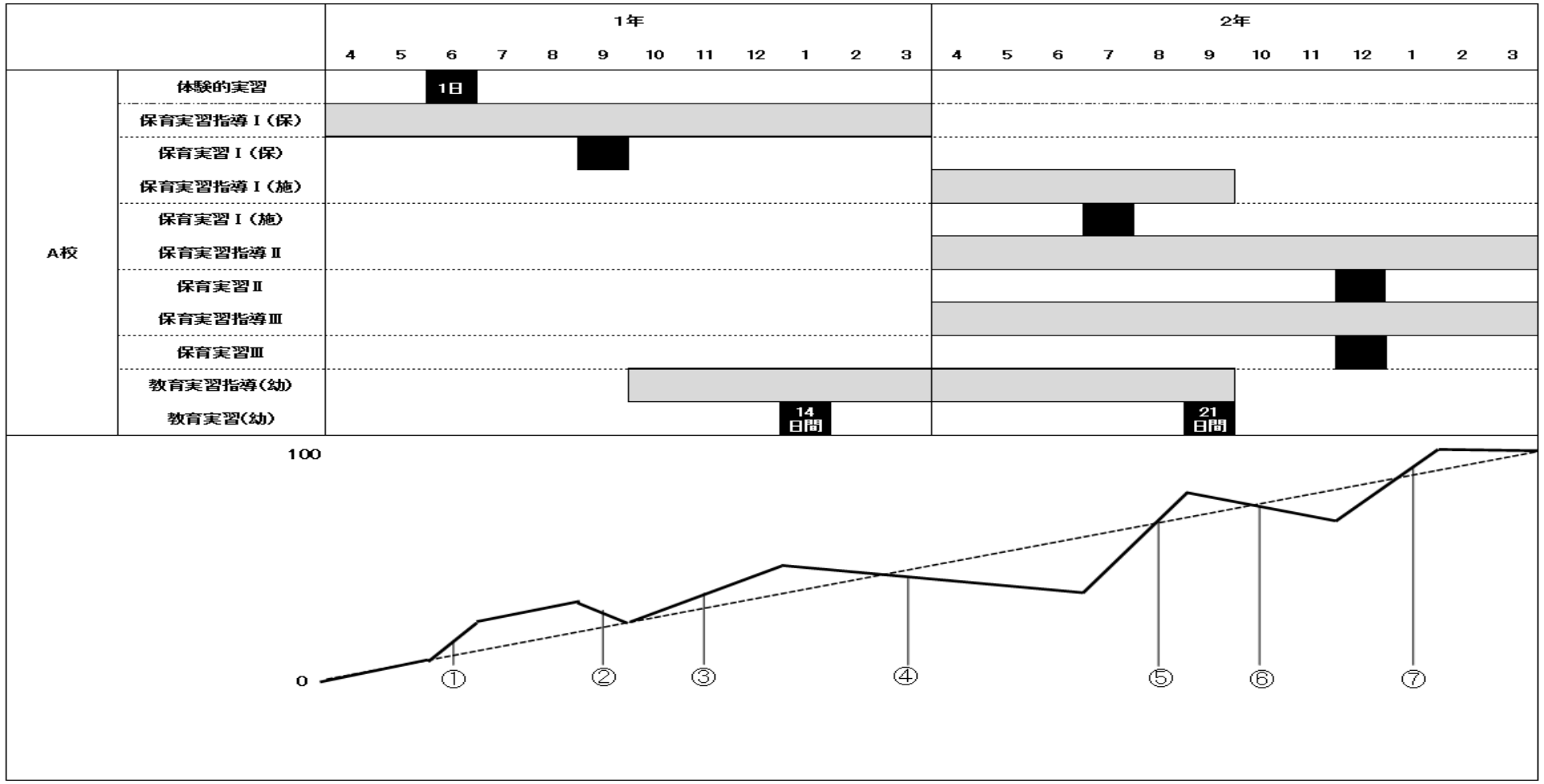
養成年限　　定員　　教員組織

実習体制

教員のパッション（情熱）と創意工夫のたまもの

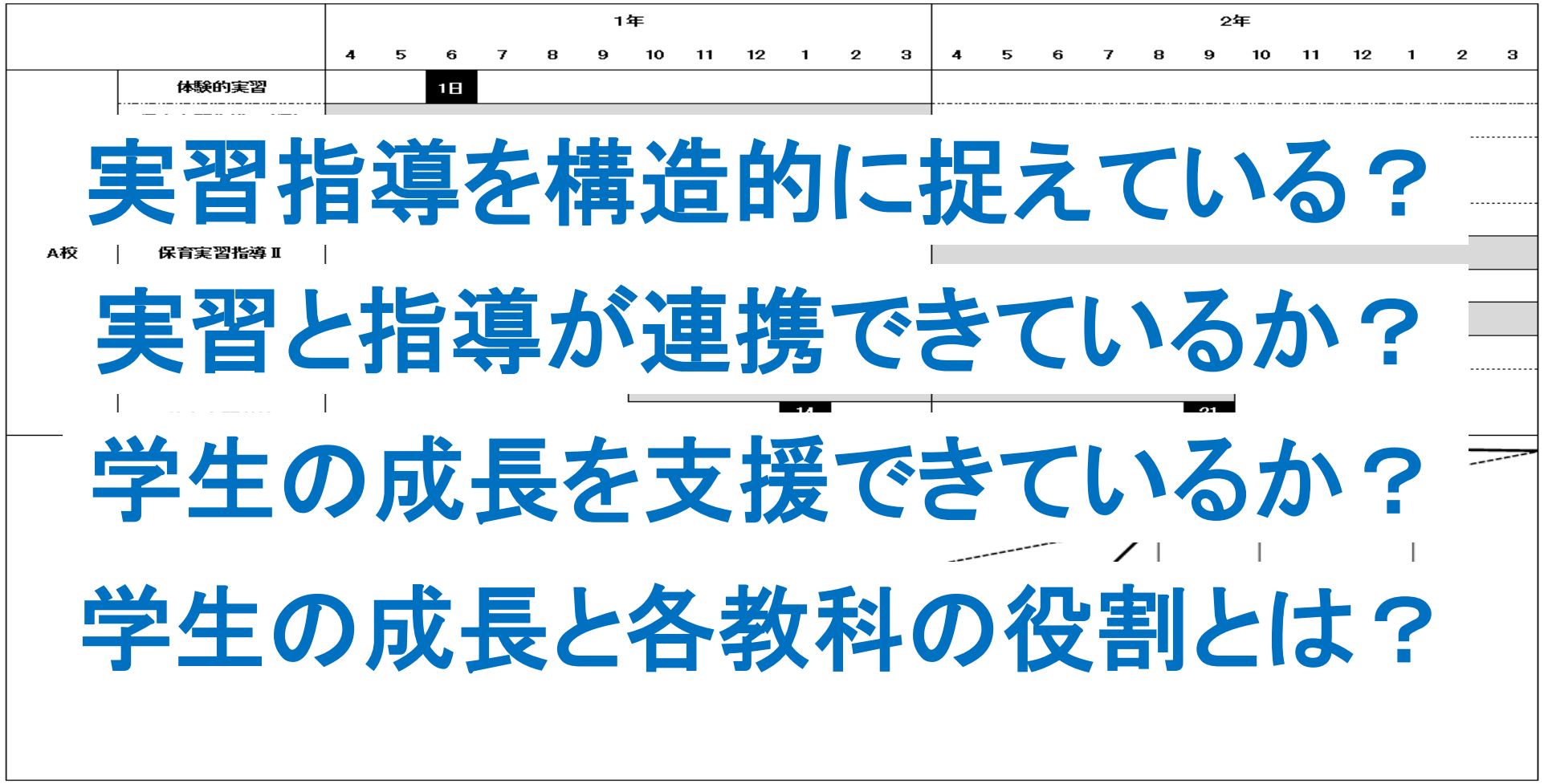
おわりに

実習チャートの記入と学生の成長曲線



おわりに

実習チャートの記入と学生の成長曲線



実習指導を構造的に捉えている？

実習と指導が連携できているか？

学生の成長を支援できているか？

学生の成長と各教科の役割とは？

おわりに

実習チャートの記入と学生の成長曲線

ご自身の養成校の実習チャートを描いてみませんか？

実習と実習指導と各教科が、
学生の成長にどうつながっているか、
学生の成長を保障できるようなカリキュラムか、
教員同士で話しあうよい機会になると考えます

おわりに

ご清聴ありがとうございました

H27-28年度 専門委員

- 上垣内伸子　（十文字学園女子大学）　＊H27年度委員長
- 松島　京　（相愛大学）
- 鷲見　裕子　（高田短期大学）
- 油井　宏隆　（大阪城南女子短期大学）
- 和田上貴昭　（目白大学）
- 利根川智子　（東北福祉大学）
- 亀﨑美沙子　（十文字学園女子大学）

※以上H28.6にて任期満了

- 脇　信明　（長崎大学）　＊H28年度委員長
- 岡本　依子　（立正大学）
- 仙石美千代　（名古屋文化学園保育専門学校）
- 朴　淳香　（静岡県立大学短期大学部）
- 吾田富士子　（藤女子大学）
- 浦田　雅夫　（京都造形芸術大学）
- 勝浦　美和　（四国大学短期大学部）